

配布資料一覧

議題1	資料1-1	令和6年度におけるスポーツ団体に対する補助(案)
	資料1-2	令和6年度スポーツ関連当初予算(案)一覧表
議題2	資料2-1	令和6年度和歌山県生涯スポーツ振興基本計画(案)
	資料2-2	令和6年度和歌山県競技力向上対策基本方針(案)
議題3	資料3	令和5年度における本県スポーツの成果と課題について
報告1	資料4	令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
報告2	資料5	全国高等学校総合体育大会及びヨット競技大会について
報告3	資料6	和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に等に関する方針について
報告4	資料7	鹿児島特別国民体育大会総合成績について
報告5	資料8	特別全国障害者スポーツ大会における和歌山県選手団の競技結果について

令和 6 年度におけるスポーツ団体に対する補助（案）

本県のスポーツの振興及び奨励並びに施設の充実を促進することを目的とする事業について補助を行う。

補助先団体名	補助対象事業	金額 (単位:千円)
公益社団法人和歌山県体育協会	国民スポーツ大会・近畿ブロック大会派遣	82,857
	和歌山県スポーツ少年団総合競技大会	530
	スポーツ振興推進	16,185
	トップアスリート育成	105,402
	コーチスキルアップ	6,015
	国民スポーツ大会大会近畿ブロック大会開催	38,553
	計	249,542
各市町村体育協会等	和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝選手派遣	794
和歌山県高等学校体育連盟	高等学校体育・スポーツ振興	2,465
	全国高等学校総合体育大会関係会議等派遣費補助	300
和歌山県中学校体育連盟	中学校体育・スポーツ振興	710
和歌山県盲学校・ろう学校体育振興会 和歌山県特別支援学校体育連盟	特別支援学校体育・スポーツ振興	259
近畿地区聾学校体育連盟	特別支援学校体育・スポーツ振興	70
各ハイスクール強化校運営委員会	ハイスクール強化校指定	16,000
各ジュニアハイスクール指定校 運営委員会	ジュニアハイスクール指定	6,600
全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会 和歌山県実行委員会	全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会	21,270
和歌山県障害者スポーツ協会	障害者スポーツ振興 (各部会活動及び大会開催)	400

【参考：関係法規】

◇スポーツ基本法（平成 23 年度法律第 78 号）

（地方公共団体の補助）

第 34 条 地方公共団体は、スポーツ団体に対し、その行うスポーツの振興のための事業に関し必要な経費について、その一部を補助することができる。

（審議会等への諮問等）

第 35 条 国又は地方公共団体が第 33 条第 3 項又は前条の規定により社会教育関係団体（社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 10 条に規定する社会教育関係団体をいう。）であるスポーツ団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあっては文部科学大臣が第 9 条第 2 項の政令で定める審議会等の、地方公共団体にあっては教育委員会（特定地方公共団体におけるスポーツに関する事務（学校における体育に関する事務を除く。）に係る補助金の交付については、その長）がスポーツ推進審議会等その他の合議制の機関の意見を聴かなければならない。この意見を聴いた場合においては、同法第 13 条の規定による意見を聴くことを要しない。

◇社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）

（社会教育関係団体の定義）

第 10 条 この法律で「社会教育関係団体」とは、法人であると否とを問わず、公の支配に属しない団体で社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするものをいう。

（審議会等への諮問）

第 13 条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあっては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和 23 年法律第 120 号）第 8 条に規定する機関をいう。第 51 条第 3 項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあっては教育委員会が社会教育委員の会議（社会教育委員が置かれていない場合には、条例で定めるところにより社会教育に係る補助金の交付に関する事項を調査審議する審議会その他の合議制の機関）の意見を聴いて行わなければならない。

令和6年度スポーツ関連当初予算一覧表

(単位:千円)

事業名		令和5年度	令和6年度	増減	事業内容
1	ゴールデンキッズ発掘プロジェクト	15,966	12,367	▲ 3,599	トップアスリートを目指す優れた素質を有する子どもを対象に、育成プログラムを実施する。競技団体と連携し、県内の児童・生徒に競技選択・競技転向の機会を提供する事業を、新たに実施する。
2	国民スポーツ大会・近畿ブロック大会派遣	94,999	82,857	▲ 12,142	県体育協会が行う国民体育大会及び同近畿ブロック大会への本県選手派遣に対し補助する。
3	和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会開催	19,883	18,732	▲ 1,151	市町村対抗ジュニア駅伝競走大会を開催し、児童生徒の体力向上に資するとともに、地域におけるスポーツ気運の醸成を図る。
4	広域スポーツセンター育成	1,087	811	▲ 276	「総合型地域スポーツクラブ」の創設・育成に関し、適切な指導、助言、その他必要な支援を行う。
5	スポーツ管理運営	70,352	46,417	▲ 23,935	本県のスポーツの振興を図るため、スポーツに関する各事業に補助を行うとともに、各種事業を開催する。
6	三四六総合運動公園管理運営	65,099	50,870	▲ 14,229	三四六総合運動公園のうち、旧南紀スポーツセンター部分に係る施設の維持管理に対する支援を行う。
7	マスターズスポーツ推進	0	0	0	スポーツを核とした「元氣な和歌山」を実現するため、「ワールドマスターズゲームズ2027関西」の開催準備を進めるとともに、各スポーツ大会等と連携した「関西マスターズゲームズ2024」を開催する。※県実行委員会予算にて事業実施
8	スポーツキャンプ誘致の推進	8,794	5,750	▲ 3,044	県内で行う国内外ナショナルチームのキャンプをサポートするとともに、トップレベルスポーツ選手との交流を通じて、県民のスポーツに対する意識や関心の向上、促進を図る。
9	トップアスリート育成	136,251	111,861	▲ 24,390	ジュニア選手発掘に始まるジュニア・少年・成年の一貫指導体制による計画的・戦略的強化により、国民スポーツ大会の入賞やオリンピック等の日本代表選手の輩出などトップアスリートを育成する。
10	コーチスキルアップ	11,147	6,015	▲ 5,132	各競技の中心的指導者にコーチングスキルを向上させるシステムを構築する。併せて、次世代の強化を担う指導者を養成するシステムも構築する。
11	スポーツ医・科学サポート	23,105	18,091	▲ 5,014	紀の国わかやま国体に向けて構築したスポーツ医・科学サポートの内容や連携関係を継承するため、トレーナー・ドクター派遣、マルチサポート、医・科学サポートを引き続き行う。
12	ジュニア活性化推進	1,128	0	▲ 1,128	国体開催地となった市町村で、当該競技の他県中学校強豪チーム(選手)を招へいし、合同練習会を開催する。
13	さあ スポーツだ！プロジェクト	10,252	9,487	▲ 765	生涯にわたってスポーツに親しむ気運を醸成するため、わかやまりレーマラソンの開催や、マスターズスポーツ体験会を実施する。
14	県立体育館・武道館維持運営管理	66,030	66,046	16	県立体育館、県立武道館の運営管理及び設備改修工事を行う。
15	和歌山ビッグ愛・ビッグホエール・ビッグウエーブ維持運営管理	570,179	526,504	▲ 43,675	和歌山ビッグ愛、和歌山ビッグホエール及び和歌山ビッグウエーブの運営管理及び設備改修工事を行う。
16	学校体育等指導	6,413	5,966	▲ 447	児童生徒の体力向上を図るため体力調査を行い、結果の分析に基づく施策を実践する。 ※組織改編により和歌山・海プロジェクト等追加

令和6年度スポーツ関連当初予算一覧表

(単位:千円)

事業名		令和5年度	令和6年度	増減	事業内容
17	運動部活動推進	58,457	60,442	1,985	部活動指導員の配置や各種学校体育大会の運営及び選手派遣に対する助成を行う。
18	全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会開催	21,270	21,270	0	高校生を中心に積極的な支援活動を行い、心に残る大会とするとともに、和歌山の魅力を引き続き全国に発信する。(令和6年度まで固定開催)
19	ハイスchool強化校指定	25,500	16,000	▲ 9,500	本県高校生の競技力向上を図り、県全体のスポーツ強化に繋げる。
20	ジュニアハイスchool指定	9,290	6,600	▲ 2,690	本県中学生の競技力向上を図り、県全体のスポーツ強化に繋げる。
21	令和8年度全国高等学校総合体育大会開催準備	0	2,800	2,800	令和8年度インターハイにおいて本県で実施する競技の開催準備を行う。
22	第78回国民スポーツ大会近畿ブロック大会開催	0	38,553	38,553	国民スポーツ大会近畿ブロック大会開催に対する補助。
23	障害者スポーツ振興	30,714	29,215	▲ 1,499	障害者スポーツの振興、障害者の自立及び社会参加を促進するため、全国障害者スポーツ大会への選手団派遣や、各種スポーツ大会等の開催を行う。
24	相談センター体育施設運営	473,520	31,378	▲ 442,142	県子ども・女性・障害者相談センターのプールを適切に管理・運営する。
合計		1,719,436	1,168,032	▲ 551,404	

令和 6 年度 和歌山県生涯スポーツ振興基本方針（案）

1 目的

いつでも、どこでも、いつまでも、障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に生涯にわたってスポーツに親しめるよう各種スポーツ大会の開催、スポーツ少年団事業、総合型地域スポーツクラブの育成、指導体制の確立等を充実する。

また、生涯スポーツ振興の観点から市町村を支援し、地域のスポーツ活動のより一層の推進を図る。

2 関係事業等

(1) スポーツに親しむ機会の充実

県民の誰もが、それぞれの体力、年齢、技能、興味及び目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、ともにスポーツに親しむことができるよう、各種スポーツ大会や各地域で行われるスポーツイベント、各職場等におけるスポーツ大会などを後援するとともに、その充実を図る。

(2) スポーツ少年団事業の推進

「一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを提供する」「スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる」「スポーツで人々をつなぎ地域づくりに貢献する」というスポーツ少年団の理念に基づき、各種大会や交流事業を推進し、スポーツ少年団組織の充実と青少年の健全育成を図る。

① スポーツ少年団総合競技大会

各地方の代表が集い、交流大会を通じて団員同士の交流を図ることで、青少年の自主性や社会性を育てる。

② 指導者及びリーダーの育成

単位団の育成・指導にあたる指導者及びリーダーの育成を図る。

③ 組織整備強化事業

各地方のスポーツ少年団活動を積極的に促進するために、県スポーツ少年団指導者協議会の充実を図る。

(3) 総合型地域スポーツクラブ育成事業の推進

生涯スポーツ社会の実現を図るため、子供から高齢者まで誰もが気軽に参加でき、定期的・継続的に活動できる場として、総合型地域スポーツクラブの育成を推進する。

(4) 広域スポーツセンター

総合型地域スポーツクラブの創設や運営、活動全般について効果的・効率的に支援を行う。

- ・「総合型クラブ」の創設・育成と登録認証制度に関する支援
- ・クラブマネジャー・指導者育成に関する支援
- ・スポーツ情報の提供
- ・「総合型クラブ」のスポーツ交流大会等の開催

(5) 指導者体制の確立

ライフステージに応じた各種スポーツの機会に携わる指導者の養成と資質向上を図るた

め、講習会や研修会等を実施し、県民の多様なスポーツニーズに対応する。

講習会・研修会

コーチングアシスタントやスタートコーチ（教員免許状所持者・スポーツ少年団）等の公認スポーツ指導者資格（公益財団法人日本スポーツ協会）や、公認パラスポーツ指導者資格（公益財団法人日本パラスポーツ協会）の取得を促すとともに、指導者の資質・指導力向上のため、講習会や研修会を開催する。

（６）スポーツへの参加促進

① スポーツクラブ等の育成

地域における日常的なスポーツ活動を促進するため、スポーツ少年団をはじめ地域のスポーツクラブを育成する。

② 第 24 回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会

第 24 回大会を開催し、児童生徒の体力向上に資するとともに、地域におけるスポーツ機運の醸成を図る。（令和 7 年 2 月開催）

③ さあスポーツだ！プロジェクト

生涯にわたってスポーツに親しむ気運を醸成するため、「スポーツをやってみよう！」と呼びかけを実施するとともに、リレーマラソンや各種マスターズスポーツ体験会の開催等、スポーツにふれ合う機会を創出する。

④ パラスポーツの大会や体験会等を開催

第 24 回和歌山県障害者スポーツ大会及びゆうあいスポーツフェスタ等のパラスポーツ・レクリエーション大会、教室並びに体験会などを開催し、障害者の自立と社会参加の促進、障害への理解及びパラスポーツ振興等を図る。

⑤ ワールドマスターズゲームズ 2027 関西の機運醸成

大会の機運醸成、知名度向上（広報 PR 等）、参加者獲得に向けた取り組みを中心に実施する。

県内開催競技 5 競技 7 種目

陸上競技（ハーフマラソン、駅伝）、ダンススポーツ、セーリング（セーリング、ウィンドサーフィン）、射撃（ライフル）、バレーボール（インドア）

⑥ 関西スポーツ振興推進協議会・関西広域連合実施事業への参画

関西経済連合会が実施している関西スポーツ振興ビジョン、関西広域連合会が実施している関西広域スポーツ振興ビジョンの取り組みに参画する。

⑦ スポーツキャンプ誘致の推進

国内外ナショナルチームのキャンプをサポートするとともに、トップレベルスポーツ選手との交流を通じて、県民のスポーツに対する意識や関心の向上、促進を図る。

令和 6 年度誘致予定：神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会出場国

ハンドボール日本代表

令和6年度

和歌山県の生涯スポーツ振興事業の予算(案)概要

体育協会事業

県事業

広域スポーツセンター育成

811千円

総合型地域スポーツクラブの育成支援

- 創設クラブ 県内20市町に60クラブ(設置準備中含む)
- 事業内容
 - ・総合型クラブ和歌山県協議会の運営支援
 - ・クラブマネジャー等の運営者育成
 - ・各ブロック別事業の開催
 - ・登録認証制度に係る会議の開催
 - ・登録認証制度の円滑な運営

総合型地域スポーツクラブ指導者等研修会

- スポーツ少年団、総合型クラブ、スポーツ推進委員等を対象としたスポーツ振興に係る研修会

体育協会事業

スポーツ少年団活動への支援

530千円

第55回和歌山県スポーツ少年団総合競技大会

- | | | | |
|--------|------|------|--------|
| ■ 開催地 | 和歌山市 | | |
| ■ 実施競技 | 軟式野球 | サッカー | バレーボール |
| | 剣道 | 柔道 | 少林寺拳法 |

県事業

青少年の健全育成、スポーツに親しむ気運の醸成

第24回和歌山県市町村対抗

ジュニア駅伝競走大会 18,732千円

- 開催日 令和7年2月9日(日)<予定>
- 区間・距離 10区間、21.1km
- チーム編成 小学生男女各2名、中学生男女各3名
- 出場チーム 市町村代表 45チーム程度

「さあ スポーツだ！プロジェクト」 9,487千円

- リレーマラソンの開催 令和6年11月24日(日)
- マスターズスポーツ体験会の開催(2回実施)

「ワールドマスターズゲームズ2027関西の機運醸成」

大会の機運醸成、知名度向上(広報PR等)

- 県内開催競技 5競技7種目
 - 陸上(ハーフマラソン、駅伝)、ダンススポーツ、セーリング(セーリング、ウインドサーフィン)、射撃(ライフル)、バレーボール(インドア)

「スポーツキャンプ誘致の推進」

5,750千円

- 国内外のナショナルスポーツチーム等のキャンプ誘致を実施することにより、県民のスポーツに対する意識や関心を一層高める。

上記の青色部分は県体育協会の実施事業。ただし、オレンジ色部分は県事業

令和6年度和歌山県競技力向上対策基本方針（案）

1 目 的

本県を代表する競技者が、国際競技大会や全国大会で優秀な成績を収めることは、多くの県民に夢と感動を与え、郷土愛を育み、元気な和歌山を実現するとともに、本県のスポーツ振興に大きく寄与するものである。

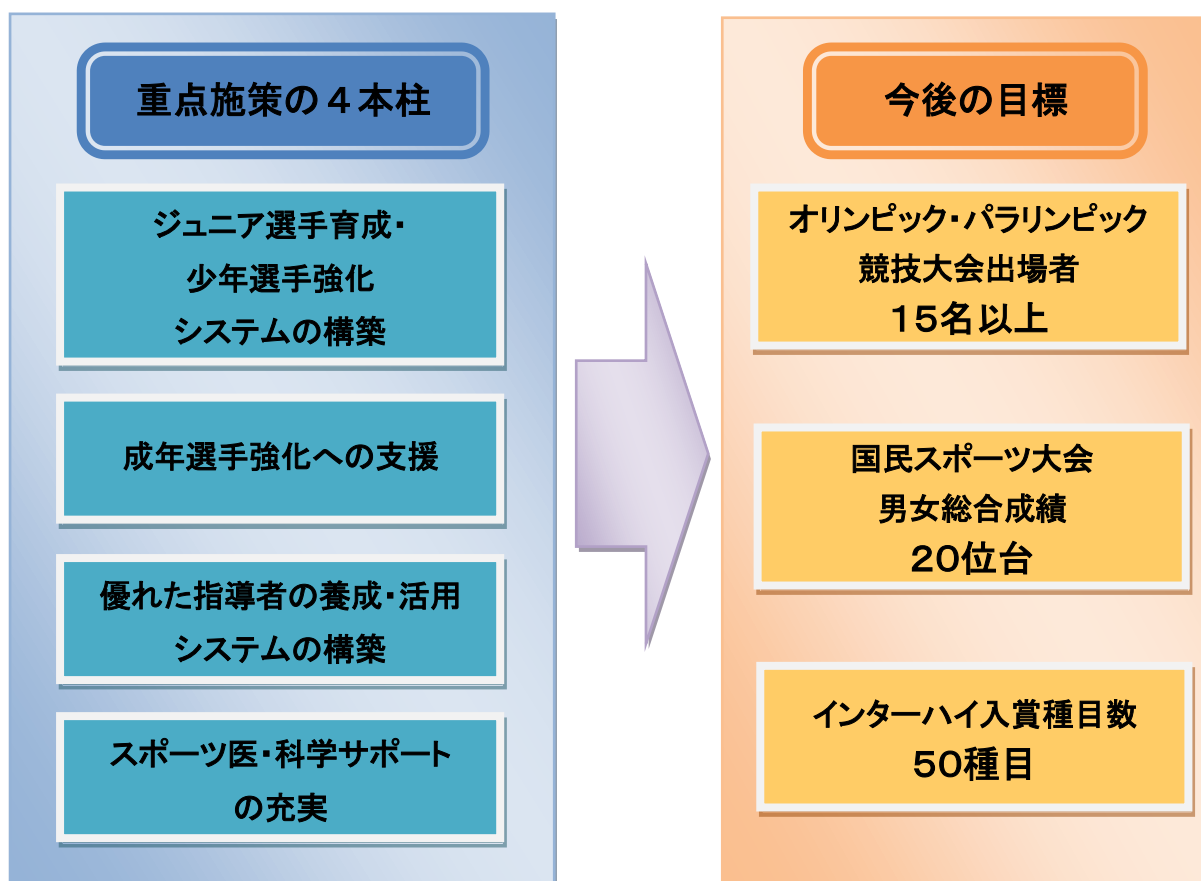
よって、平成27年に開催された「紀の国わかやま国体」における男女総合優勝（天皇杯獲得）で得られた成果やレガシーを大いに活かし、スポーツの好循環を創出し、本県の競技力をさらに維持向上していくことを目的とする。

2 方 策

「紀の国わかやま国体」の開催後、レガシーを活かし、競技力の維持向上施策に取り組み、令和5年度の鹿児島国体において男女総合成績32位という結果を収めた。

今後も、本県から国際大会で活躍する日本代表選手をより多く輩出し、国民スポーツ大会においても20位台を目指すためには、以下に掲げる4本柱からなる競技力維持向上施策の継続が必要と考えられる。

ついては、県と県体育協会が連携して、重点施策の4本柱を着実に押し進めていくこととする。



(1) **ジュニア選手育成・少年選手強化システムの構築**

紀の国わかやま国体に向けてターゲットエイジを発掘・育成・強化してきたノウハウを活かし、ジュニア選手育成・少年選手強化システムを構築する。そして、成年種別の活躍へと繋げる。

①ジュニア選手の育成

○ ジュニア・少年・成年強化〔ジュニア〕

国スポの少年種別選手や成年種別のふるさと選手として活躍する選手を育成するため、国スポ実施競技を対象に年間を通じて発掘事業、強化合宿、県外遠征等を実施し、ジュニア選手の育成を図る。

○ ジュニアハイスクール指定事業

県内の中学校運動部を特別に指定し、当該競技の強化拠点となる活動を展開させるとともに、競技力の向上を図る。

○ ゴールデンキッズ発掘プロジェクト事業

トップアスリートを目指す優れた素質を有する子どもを対象に、育成プログラムを実施する。競技団体と連携し、県内の児童・生徒に競技選択・競技転向の機会を提供する事業を、新たに実施する。

②少年選手の強化

○ ジュニア・少年・成年強化〔少年〕

国スポの少年種別において優秀な成績を収めるため、国スポ実施競技を対象に年間を通じて県外遠征や強化合宿等を実施し、競技力の向上を図る。

○ スペシャルアスリートサポート〔少年〕

トップレベルの競技力を有する本県の国スポ少年種別選手やオリンピック競技大会を目指す選手を支援し、競技力の向上を図る。

○ ハイスクール強化校指定事業

県内の高等学校運動部を特別に指定し、当該競技の強化拠点となる活動を展開させるとともに、競技力の向上を図る。

(2) **成年選手強化への支援**

国スポに向けた競技団体の強化事業、成年強化の母体となって活動している企業チームやクラブチームの活動維持等について支援する。

①成年選手の強化

○ ジュニア・少年・成年強化〔成年〕

国スポの成年種別において優秀な成績を収めるため、国スポ実施競技を対象に年間を通じて県外遠征や強化合宿等を実施し、競技力の向上を図る。

○ スペシャルアスリートサポート〔成年〕

トップレベルの競技力を有する本県の国スポ成年種別選手やオリンピック・パラリンピック競技大会を目指す選手を支援し、競技力の向上を図る。

○ きのくにふるさと選手派遣

本県小学校、中学校、高等学校を卒業した『ふるさと選手』の中から、全国で活躍する選手を指定し、国スポの県代表選手選考会に出場する環境を整える。

②トップレベル・スポーツクラブの育成

○ トップレベル・スポーツクラブ活性化支援

スポーツクラブの運営組織・財政基盤の確立を促進するとともに、トップレベルの競技力を有するスポーツクラブとして、企業・行政・地域住民の支援によるクラブの自立を目指す。

(3) **優れた指導者の養成・活用システムの構築**

各競技の中心的指導者を対象に、コーチングスキルを向上させるシステムを構築する。併せて、次世代の強化を担う指導者を養成（公認指導者資格取得を含む）するシステムも構築する。

○ トップ強化コーチ招へい

中央競技団体等の優秀な指導者を招へいすることにより、高度な技術や戦略等を習得する。

○ コーチ派遣育成

優秀な指導者の養成及び資質向上のため、「チーム和歌山コーチ塾」等を開催する。

また、次世代の強化を担う指導者を、「きのくにコーチ」として任命し

- ・ 県内や全国各地で開催される研修会

- ・ 国内優秀指導者の下での短期研修等

- ・ 国スポ強化チームの強化合宿、県外遠征、全国大会等

に派遣し、優れた指導者を養成する。

(4) **スポーツ医・科学サポートの充実**

紀の国わかやま国体に向けて構築したスポーツ医・科学サポートの内容や関係機関との連携を継承する。

○ トレーナー・ドクター派遣

国スポ、近畿ブロック大会、強化練習・遠征にトレーナーやドクターを派遣する。

○ マルチサポート

- ・ 専門機関によるアンチ・ドーピング活動、スポーツ歯科サポート、女性アスリートサポートの実施。

- ・ 専門機関や競技団体との連携強化のため、各種会議・講習会を開催する。

○ 医・科学サポート

専門機関において、メディカルチェック等の医・科学チェックを受けるとともに、トレーニングや心理等の医・科学支援を受ける。

令和6年度

和歌山県の競技力向上関連事業の予算概要

合計 170,934千円 (222,387千円)

体育協会・県事業

トップアスリート育成事業

111,861千円

- 1 ジュニア・少年・成年強化
遠征、強化合宿等の強化事業への補助
- 2 スペシャルアスリートサポート
トップレベルの競技力を有する本県の国スポ選手やオリンピック・パラリンピック候補選手個人に対するサポート
- 3 トップレベル・スポーツクラブ活性化支援
トップレベルのチームスポーツに対するサポート
- 4 きのくにふるさと選手派遣
トップレベルの競技力を有する本県ふるさと選手に対するサポート
- 5 競技力向上対策会議運営
会議の開催、国スポ等の競技力分析
- 6 特殊競技用器具整備事業
特殊競技用器具の整備に係る費用を補助

体育協会事業

コーチスキルアップ事業

6,015千円

- 1 トップ強化コーチ招へい
日本トップレベルの優秀な指導者の招へい
- 2 コーチ派遣育成
次世代を担う指導者「きのくにコーチ」の養成、資質向上
研修会や全国大会等への派遣

体育協会事業

スポーツ医・科学サポート事業

18,091千円

- 1 トレーナー・ドクター派遣
- 2 マルチサポート
- 3 医・科学サポート

県事業

ゴールデンキッズ発掘プロジェクト事業

12,367千円

トップアスリートを目指す優れた素質を有する子どもを対象に、育成プログラムを実施する。
競技団体と連携し、県内の児童・生徒に競技選択・競技転向の機会を提供する事業を、新たに実施する。

県事業

ハイスクール強化校指定事業

16,000千円

高等学校の運動部を指定し、遠征等を実施するための補助

県事業

ジュニアハイスクール指定事業

6,600千円

中学校の運動部を指定し、遠征等を実施するための補助

金額の（ ）は令和5年度

令和 5 年度における本県スポーツの成果と課題

1 学校と地域における子供のスポーツ環境の充実

■成果と課題

1. 子供の体力・運動能力の向上

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点は小・中学校の男女とも全国平均を上回っており、昨年度調査と比較すると回復基調であるが、コロナ前の水準には至っていない。また、生活習慣の状況について、睡眠時間は回復傾向がみられたが、肥満の割合（小 5 男子を除く）、朝食欠食、スクリーンタイムが増加した。運動意識については、体育が楽しいと回答した児童生徒（中 2 女子を除く）が増加した。運動する子とそうでない子の二極化や、スピードや瞬発力、全身持久力などに課題があるため、今後、体育授業の更なる充実に向けた効果的な取組指導や、各市町村・学校の「体力アッププラン」による着実な実践と検証を促進していく。

2. 運動部活動の充実

専門的な指導が受けられるよう部活動指導員等の配置を充実させており、引き続き部活動指導員等の配置の拡充に努める。中学校における部活動の地域連携・地域移行については、県推進協議会や地方別意見交換会を実施した。また、令和 6 年 2 月に「和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を策定し、各市町村で部活動の地域連携・地域移行に係る協議が進むよう取り組んでいく。

3. 「運動部活動指導の手引」等の活用

子供たちが安心・安全に部活動に取り組むことができるよう、運動部活動指導者研修会を開催し、適切な部の運営及び指導に対する共通理解を図った。しかし、暴力・ハラスメント等の根絶に至っていないことから、運動部活動指導の手引等に基づく適切な指導・運営、安全管理の徹底及び事故防止に取り組んでいく必要がある。

4. 学校体育指導者の資質向上

育成を目指す資質・能力を身に付けさせるためモデル校を指定し、公開授業に向けた取組や授業研究会を通して学校体育指導者の資質向上を図ることができた。体力向上に資する取組においても、大学教員等の助言を受け、改善してきた内容を公開することで、指導方法及び評価等に関する研究を推進した。

5. 学校体育の授業改善

小・中・義務教育・高等学校の教員を対象に、体育実技指導に関する研修会や大学教員を講師とする研修会の実施により、取組の好事例を共有するとともに授業改善を図った。全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、体育の授業が楽しいと回答した児童生徒が増加していることから、今後も魅力ある授業づくりを推進する。

6. 子供を取り巻く社会のスポーツ環境の充実

那賀地方で開催した第 54 回和歌山県スポーツ少年団総合競技大会では、軟式野球、サッカー、バレーボール、剣道、柔道、少林寺拳法の 6 競技を実施し、1,805 名が参加した。

第 23 回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会を実施し、44 チーム、747 人が参加した。

情緒に障がいのある子どもに運動の機会を提供し、親子でスポーツに親しみ、体力づくりに資することを目的に「情緒障がい児特別体操教室」を開催した。

■指標及び実績

指 標	令和 9 年 目標値	平成 30 年 実績	令和元年 実績	令和 2 年 実績	令和 3 年 実績	令和 4 年 実績	令和 5 年 実績
全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校 5 年生）の全国順位	男女とも 10 位以内	男 16 位 女 11 位	男 16 位 女 15 位	—	男 18 位 女 20 位	男 18 位 女 22 位	男 16 位 女 17 位
全国体力・運動能力、運動習慣等調査（中学校 2 年生）の全国順位	男女とも 15 位以内	男 25 位 女 21 位	男 23 位 女 12 位	—	男 35 位 女 22 位	男 27 位 女 28 位	男 29 位 女 29 位

2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

4 全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプの誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化

■成果と課題

1. スポーツに親しむことができる環境整備の推進

第7回わかやまりレーマラソン～パンダ RUN～（県内外参加者数：1,820 名）及びスポーツ体験会（2 回）を紀三井寺公園他で開催した。スケートパークについては、月間利用者数約 1,200 人で推移し、多くの方々に利用されている。

2. ワールドマスタースゲームズ 2027 関西等の開催

ワールドマスタースゲームズ 2027 関西の開催に向けた更なる機運醸成のため、関西マスタースゲームズ広域大会等（5 大会）の開催を支援した。また、ホームページや SNS を活用して継続的な広報活動を展開した。

3. 障害者スポーツに関する取り組み

障害者の社会参加や健康増進、障害者に対する社会の理解の促進等を目的に第 23 回和歌山県障害者スポーツ大会、フレンドシップ 2023（ボッチャ競技）及びゆうあいスポーツフェスタを開催した。

また、県障害者スポーツ協会と連携し、障害者に対するスポーツ教室や体験会、パラスポーツ指導員養成講習会を開催し、普及に関する取り組みを行った。

4. 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

県体育協会とともに、総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会に対し、設立に向けた助言を行い、市町村行政と準備委員会の協力関係を構築できるよう支援した。また、それぞれの地域で研修会を開催することにより、クラブの運営を担う人材の育成及び資質向上を図った。

総合型地域スポーツクラブで活動する仲間が集い、子供から大人まで世代やクラブの枠を越えた交流の促進を目的に、和歌山県総合型地域スポーツクラブ実践交流会を開催した。

5. スポーツ指導者の育成・支援

和歌山県新任スポーツ推進委員研修会や和歌山県スポーツ推進委員研究協議会を開催し、地域スポーツ振興の核となる指導者としての資質向上を図った。また、和歌山県地域スポーツ指導者等研修会を開催し、部活動地域移行に関する諸課題や人材育成について見識を深めた。

6. トップレベルの競技スポーツを身近で観戦したり応援したりする機会の充実

プロ野球ウエスタンリーグ（観戦者数：1,746 人）及びバレーボール V リーグ（観戦者数：4,482 人）の公式戦の開催を支援し、県民がトップレベルの競技スポーツを身近に感じる機会を提供することができた。

7. 国際競技大会等のキャンプ候補地としての効果的なアピールと更なる優位性の向上

国内外ナショナルチーム等のスポーツキャンプの受入を行い、ハンドボール女子日本代表強化合宿とパラ陸上競技日本代表合宿を支援した。歓迎セレモニーや小・中学生・高等部生徒を対象とした体験会等の交流イベントを実施し、県民にトップレベルのスポーツを身近に感じる機会を提供することができた。

■指標及び実績

指 標	令和 9 年 目標値	平成 30 年 実績	令和元年 実績	令和 2 年 実績	令和 3 年 実績	令和 4 年 実績	令和 5 年 実績
成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	70%	—	—	—	52.2%	54.5%	—
国内外ナショナルチーム等のキャンプ年間誘致数	15 件	10 件	8 件	4 件	12 件	8 件	10 件 ※2月末現在

3. 世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化

■成果と課題

1. ジュニア期からの一貫した強化体制の確立

競技団体と連携した強化事業の取組により、昨年度の栃木国体の男女総合成績 39 位から今年度の鹿児島国体 32 位まで順位を上げ、一定の成果を上げることができた。

「ゴールデンキッズ発掘プロジェクト」修了生のうち 3 名が、年代別を含む世界選手権等の日本代表として国際舞台に立つことができた。より多くの子供たちにスポーツに出会う機会を与え、競技団体にパスウェイし、競技力の向上を目指す仕組みに制度を改める。

2. スポーツ指導者の養成と活用

公認指導者資格更新のための和歌山県スポーツ指導者研修会を 2 回開催し、資格の更新・維持に努めるとともに、公認指導者養成講習会を実施し、資格登録者は前年度から 361 名増えた。（現登録者数 2,172 名）

また、優れた指導力を有する退職教員 8 名を「きのくにエクセレントコーチ」として強化拠点校に配置した。

3. 高度なスポーツ医・科学分野の支援

選手や指導者が高度なスポーツ医・科学サポートを受けられるよう、専門機関と連携を図りながら、可能な範囲で強化練習会へのトレーナー派遣や心理サポート、映像サポート等のスポーツ医・科学サポートを充実させた。

また、女性アスリートサポートでは、関係機関と連携し、県内産婦人科医師との連携や女性アスリート育成支援のための情報提供等を行い、相談しやすい環境づくりに取り組んだ。

4. アンチ・ドーピング活動の推進

国民体育大会等に出場する選手や監督を対象とした「アンチ・ドーピング研修会」を情報提供の形で開催するとともに、各競技団体に配置したスポーツファーマシストと連携し、「アンチ・ドーピングに係るアンケート調査」を実施することで、未然にドーピング違反を防止するなど、アンチ・ドーピング活動に取り組んだ。

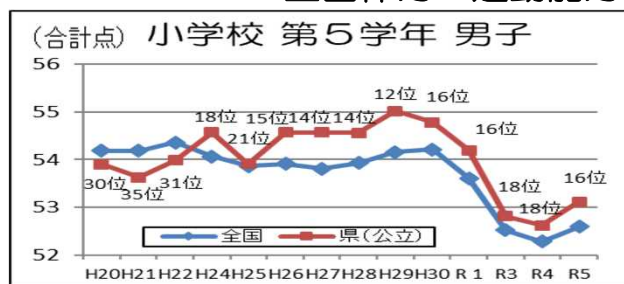
5. スポーツ界のガバナンスの強化

県体育協会理事会及び総会にあわせてスポーツ団体ガバナンスコード（一般スポーツ団体向け）に関する研修会及び説明会を開催し、各競技団体に遵守状況の自己説明と公表を行うよう働きかけた。また、県体育協会においても、令和 5 年 10 月 31 日に、ガバナンスコードの遵守状況について、県体育協会ホームページで自己説明と公表を行った。今後も公表を毎年継続するとともに、達成項目を増加させていく必要がある。

■指標及び実績

指 標	令和 9 年 目標値	平成 30 年 実績	令和元年 実績	令和 2 年 実績	令和 3 年 実績	令和 4 年 実績	令和 5 年 実績
オリンピック・パラリンピック競技大会における本県関係者の出場者数	15 名以上	—	—	—	13 名	—	—
国民体育大会男女総合成績	20 位台	27 位	22 位	—	—	39 位	32 位
全国高等学校総合体育大会での 8 位以上種目数	50 種目	28 種目	30 種目	—	41 種目	37 種目	36 種目

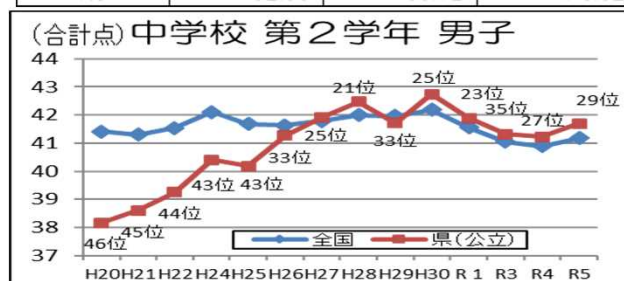
全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果



小学校 5年 男子	体力合計点 (平均)		
	全国	県(公立)	合計点差
H20	54.19	53.90	-0.29
H21	54.19	53.63	-0.56
H22	54.36	53.99	-0.37
H24	54.07	54.57	+0.50
H25	53.87	53.91	+0.04
H26	53.91	54.57	+0.66
H27	53.81	54.57	+0.76
H28	53.93	54.56	+0.63
H29	54.16	55.02	+0.86
H30	54.21	54.78	+0.57
R 1	53.61	54.20	+0.59
R 3	52.53	52.82	+0.29
R 4	52.29	52.63	+0.34
R 5	52.60	53.12	+0.52



小学校 5年 女子	体力合計点 (平均)		
	全国	県(公立)	合計点差
H20	54.85	54.59	-0.26
H21	54.60	53.87	-0.73
H22	54.91	54.39	-0.52
H24	54.87	55.10	+0.23
H25	54.71	55.60	+0.89
H26	55.01	55.81	+0.80
H27	55.19	56.24	+1.05
H28	55.54	56.56	+1.02
H29	55.72	56.74	+1.02
H30	55.90	56.84	+0.94
R 1	55.59	56.32	+0.73
R 3	54.66	55.10	+0.34
R 4	54.32	54.61	+0.29
R 5	54.29	55.01	+0.72



中学校 2年 男子	体力合計点 (平均)		
	全国	県(公立)	合計点差
H20	41.42	38.17	-3.25
H21	41.30	38.61	-2.69
H22	41.54	39.25	-2.29
H24	42.11	40.40	-1.71
H25	41.69	40.19	-1.50
H26	41.63	41.27	-0.36
H27	41.80	41.92	+0.12
H28	42.00	42.47	+0.47
H29	41.96	41.72	-0.24
H30	42.18	42.74	+0.56
R 1	41.56	41.88	+0.32
R 3	41.05	41.32	+0.27
R 4	40.90	41.23	+0.33
R 5	41.18	41.70	+0.52



中学校 2年 女子	体力合計点 (平均)		
	全国	県(公立)	合計点差
H20	48.29	44.94	-3.35
H21	47.87	44.74	-3.13
H22	47.99	46.08	-1.91
H24	48.62	47.49	-1.13
H25	48.31	47.03	-1.28
H26	48.55	47.60	-0.95
H27	48.96	49.24	+0.28
H28	49.41	49.84	+0.43
H29	49.80	49.75	-0.05
H30	50.43	50.93	+0.50
R 1	50.03	51.04	+1.01
R 3	48.41	49.23	+0.82
R 4	47.28	47.47	+0.19
R 5	47.08	47.46	+0.38

☆ これまでの取組

※平成23年度は東日本大震災のため中止

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

本県では、体力（生きる力の源）の重要性を認識し、平成20年度から、小学生から高校生まですべての学年で体力テストを実施！

○ 学校体育の充実

- ・ 紀州っ子体力アッププランの作成・実践（授業改善）
- ・ 小・中学校訪問指導
- ・ 各種研修会の開催
- ・ 紀州っ子かがやきエクササイズ＆ダンスの活用

○ 運動機会の拡大

- ・ きのくにチャレンジランキング
- ・ 運動部活動の適切な運営

☆ 課題と今後の取組

●運動する子とそうでない子の二極化

●小学生男女ともスピード・瞬発力
中学生男女ともスピード・瞬発力・全身持久力、加えて女子は筋力

○体育授業の更なる充実に向けた効果的な取組指導

○各市町村・学校の「体力アッププラン」による着実な実践と検証を促進



「飛び立て若き翼 北海道総体 2023」

一轟かせ 魂の鼓動 北の大地へ 大空へー

北海道、山形県、栃木県、和歌山県で開催

- 8位以内の入賞・・・・・・・・・・14競技 36種目（令和4年度…13競技 37種目）
- 8位以内に入賞した学校数・・・19校 （令和4年度…16校）
- トピックス
 - * 本県開催のヨット競技で初優勝（令和16年度まで固定開催）

【団体の部】

順位	競技	種目	学校名	備考（記録等）
1位	ヨット	（男子）420級	和歌山工業高校	
	カヌー	（男子）カナディアンフォア（200m）	神島高校	38秒648
	少林寺拳法	（男子）団体	神島高校	
2位	ヨット	（男子）コンバインド	和歌山工業高校	
	弓道	（女子）団体	神島高校	
	アーチェリー	（男子）団体	和歌山高校	
3位	ソフトテニス	（女子）団体	和歌山信愛高校	
4位	ヨット	（女子）420級	和歌山工業高校	
	カヌー	（男子）カナディアンフォア（500m）	神島高校	1分55秒533
	自転車	（男子）チームパシュート	和歌山北	4分36秒613
5位	相撲	団体	箕島高校	
	空手道	（男子）団体	箕島高校	
	ホッケー	（女子）	田辺高校	
8位	ヨット	（女子）コンバインド	和歌山工業高校	

【個人の部】

順位	競技	種目	学校名	学年	氏名	備考（記録等）
1位	少林寺拳法	（男子）組演武	神島高校	3	小嶋 智希	
				3	下野 大和	
	陸上競技	（男子）砲丸投	和歌山工業高校	3	桑添 喬偉	16m53
2位	相撲	個人	和歌山商業高校	2	西出 大毅	
	陸上競技	（女子）ハンマー投	箕島高校	3	玉置 歩加	54m23
	陸上競技	（女子）やり投	開智高校	3	寺田 莉子	48m04
3位	柔道	（男子）60kg級	初芝橋本高校	3	横井 蓮	
4位	少林寺拳法	（女子）単独演武	橋本高校	3	坂本 結衣	
	陸上競技	（女子）走高跳	近大和歌山高校	3	前西 咲良	1m67
	陸上競技	（男子）やり投	向陽高校	3	藤田 和希	64m60
	カヌー	（男子）カナディアンシングル（200m）	神島高校	3	吉田 朋矢	44秒602
	ウエイトリフティング	（男子）96kg級スナッチ	紀北工業高校	3	岡田 悠翔	111kg
	競泳	（女子）50m自由形	粉河高校	1	榎本 裕月	25秒89
5位	陸上競技	（男子）砲丸投	紀央館高校	2	永江 翔太朗	15m68
	空手道	（男子）個人組手	箕島高校	3	佐原 優太朗	
6位	ウエイトリフティング	（女子）71kg級スナッチ	和歌山工業高校	1	坂本 桃果	59kg
	競泳	（女子）100m自由形	粉河高校	1	榎本 裕月	56秒71
	競泳	（女子）100mバタフライ	田辺高校	3	濱野 美海	1分00秒78
7位	ヨット	（女子）レーザーラジアル級	星林高校	1	矢野 菜菜	
	ウエイトリフティング	（女子）71kg級クリーン&ジャーク	和歌山工業高校	1	坂本 桃果	71kg
	ウエイトリフティング	（女子）71kg級トータル	和歌山工業高校	1	坂本 桃果	130kg
8位	ウエイトリフティング	（男子）96kg級トータル	紀北工業高校	3	岡田 悠翔	231kg
	ウエイトリフティング	（男子）+102kg級スナッチ	紀北農芸高校	3	畑上 晃汰	110kg

令和5年度全国高等学校総合体育大会 ヨット競技大会【報告】

開催期日 令和5年8月12日（土）～16日（水）

開催場所 和歌山セーリングセンター（和歌浦湾）

参加者 大会出場校 男子：46校 女子：40校 計：62校
（重複校は1校として算出）

選手 男子：200名 女子：123名 計：323名
監督・コーチ：106名

競技結果 男子コンバインド
1位 霞ヶ浦（茨城）
2位 和歌山工業（和歌山）
3位 高松商業（香川）
41位 星林（和歌山）

女子コンバインド
1位 光（山口）
2位 福岡第一（福岡）
3位 高松商業（香川）
8位 和歌山工業（和歌山）
12位 星林（和歌山）

男子420級
1位 和歌山工業（和歌山）
2位 聖光（山口）
3位 霞ヶ浦（茨城）
39位 和歌山工業（和歌山）

女子420級
1位 光（山口）
2位 福岡第一（福岡）
3位 光（山口）
4位 和歌山工業（和歌山）
26位 星林（和歌山）

男子レーザーラジアル級
1位 広島なぎさ（広島）
2位 静岡（静岡）
3位 霞ヶ浦（茨城）
10位 和歌山工業（和歌山）
24位 星林（和歌山）

女子レーザーラジアル級
1位 山手学院（神奈川）
2位 磐田南（静岡）
3位 福岡第一（福岡）
7位 星林（和歌山）

観客 約900名

競技の様子



420級



レーザーラジアル級



表彰式

インターハイヨット競技大会 令和16年まで和歌山セーリングセンターで固定開催

【参考】全国高等学校総合体育大会（インターハイ）について

開催形態：平成23年度（北東北ブロック）からブロック開催（輪番制）

開催時期：7月下旬～8月下旬

実施競技：30競技

※今後の開催ブロック

令和6年度：北部九州

令和7年度：中国

令和8年度：近畿

令和6年度全国高等学校総合体育大会 競技会場・競技日程

令和5年9月4日現在

☆:総合開会式 ◎:総合開会式参加競技 ○:競技種目別開会式 ●:競技 ■:競技種目別開会式後競技 ◆:競技終了後閉会式 □:競技種目別閉会式

都道府県	競技種目等	会場地 市町	競技会場	7月							8月																								
				21 日	22 月	23 火	24 水	25 木	26 金	27 土	28 日	29 月	30 火	31 水	1 木	2 金	3 土	4 日	5 月	6 火	7 水	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	
福岡県	総合開会式	久留米市	福岡県立久留米スポーツセンター体育館(久留米アリーナ)							☆																									
	陸上競技	福岡市	東平尾公園博多の森陸上競技場							◎	●	●	●	◆																					
	体操	体操競技 新体操	北九州市	北九州市立総合体育館								○	●	●	◆																				
			福岡市	福岡市総合体育館(照葉積水ハウスアリーナ) 福岡市民体育館 福岡県立スポーツ科学情報センター(アクション福岡)											○	●	●	●	●	◆															
	ハンドボール	久留米市	福岡県立久留米スポーツセンター体育館(久留米アリーナ)																	○	●	●	●	●	●	◆									
			久留米市みづま総合体育館																			●	●	●	●	●									
			福岡市	福岡県立スポーツ科学情報センター(アクション福岡)																			●	●	●	●	●								
			九州産業大学大楠アリーナ2020																					●	●	●									
	登山	大牟田市	大牟田市総合体育館																			●	●												
			そえだ公民館(オークホール)																			○													
福岡県立英彦山青年の家〔審査・幕営地〕 英彦山山系(英彦山、岳減鬼山)																						●	●	●											
自転車競技	トラックレース	北九州市	北九州メディアドーム					○	●	●	●																								
佐賀県	水泳	競泳	佐賀市	SAGAサンライズパーク SAGAアクア																												■	●	●	◆
	ハドミントン	佐賀市	SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ										○	●	●	●	◆																		
			SAGAサンライズパーク SAGAプラザ												●	●	●																		
			佐賀市立諸富文化体育館												●	●	●																		
			吉野ヶ里町	吉野ヶ里町文化体育館											●	●	●																		
	レスリング	嬉野市	嬉野市中央体育館																		■	●	●	◆											
	ボクシング	佐賀市	SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ																			○	●	●	●	●	◆								
	フェンシング	佐賀市	SAGAサンライズパーク SAGAアリーナ			○	●	●	●	◆																									
少林寺拳法	佐賀市	SAGAサンライズパーク SAGAプラザ																																	
長崎県	卓球	大村市	大村市体育文化センター																		○	●	●	●	◆										
	ソフトテニス	男子	長崎市	長崎市総合運動公園かきどまり庭球場																															
		女子	長崎市	長崎市総合運動公園かきどまり庭球場					○	●	●	◆																							
	ソフトボール	男子	大村市	大村市体育文化センター 大村市総合運動公園運動広場									○																						
		女子	大村市	大村市体育文化センター 大村市総合運動公園運動広場	○																														
	ボート	諫早市	小野体育館																				○												
			本明川ボートコース																																
	弓道	島原市	島原復興アリーナ																																
	ホッケー	佐世保市	アルカスSASEBO						○																										
			川棚大崎自然公園交流広場																																
			佐世保青少年の天地プレイグラウンド																																
			佐世保市総合グラウンド陸上競技場																																
	ウエイトリフティング	諫早市	ホテルフラッグス諫早 小野体育館																			○													
	空手道	佐世保市	佐世保市体育文化館																			○	●	●	◆										
アーチェリー	長崎市	長崎市総合運動公園かきどまり陸上競技場																																	
大分県	水泳	飛込	別府市	別府市営青山プール																												■	●	●	◆
		水球	大分市	大分県立大分商業高等学校																												■	●	●	◆
	バレーボール	男子	中津市	中津文化会館 ダイハツ九州アリーナ 中津体育センター																			○	●	●	●	◆								
			日田市	日田市総合体育館																															
			中津市	中津文化会館 ダイハツ九州アリーナ 中津体育センター					○	●	●	●	◆																						
		女子	日田市	日田市総合体育館																															
			中津市	中津文化会館 ダイハツ九州アリーナ 中津体育センター						○	●	●	●	◆																					
			日田市	日田市総合体育館																															
	相撲	宇佐市	宇佐市総合運動場相撲場																																
	柔道	大分市	レゾナック武道スポーツセンター																																
	剣道	大分市	レゾナック武道スポーツセンター																																
テニス	大分市	JCOMホルトホール大分																				○													
		レゾナックテニスコート																																	
		豊後企画テニスコート																																	
自転車競技	ロードレース	日田市	オートポリス																																
なぎなた	大分市	レゾナック武道スポーツセンター																																	
カヌー	豊後高田市	豊後高田市真玉B&G海洋センター																																	
北海道	サッカー	女子	室蘭市	◎栗林商会アリーナ 室蘭市入江運動公園陸上競技場 リーフラスフットボールパーク																															
			伊達市	伊達まなびの里サッカー場																															
			伊達市	伊達まなびの里サッカー場																															
福島県	サッカー	男子	Jヴィレッジ																																
			植葉町	植葉町総合グラウンド陸上競技場																															
			広野町	広野町サッカー場																															
			いわき市	21世紀の森公園いわきグリーンフィールド 21世紀の森公園多目的広場																															
和歌山県	ヨット	和歌山市	和歌山セーリングセンター																																
都道府県	競技種目等	会場地 市町	競技会場	21 日	22 月	23 火	24 水	25 木	26 金	27 土	28 日	29 月	30 火	31 水	1 木	2 金	3 土	4 日	5 月	6 火	7 水	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	

和歌山県学校部活動及び
地域クラブ活動の在り方等に関する方針
—生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現を目指して—

和歌山県教育委員会

令和6年2月

はじめに
本方針の趣旨等

I 生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現を目指す取組

- 1 国の動向
- 2 和歌山県の中学校部活動を取り巻く現状
 - (1) 中学校部活動における少子化の影響
 - (2) 中学校運動部活動加入状況
- 3 和歌山県における今後の目指す姿と取組の方向性

II 学校部活動

- 1 学校部活動の意義と学習指導要領上の位置付け
- 2 学校部活動の運営
 - (1) 活動の方向性
 - (2) 学校部活動の方針の策定等
 - (3) 活動時間の設定
 - (4) 適切な休養日の設定
 - (5) 学校全体での共通理解と生徒・保護者及び地域等への周知
 - (6) 部活動指導員・外部指導者の活用
 - (7) 学校部活動の再編
 - (8) 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備
 - (9) 安全管理と事故防止
 - (10) 学校部活動の地域連携・地域移行

III 新たな地域クラブ活動

- 1 新たな地域クラブ活動の在り方
- 2 新たな地域クラブ活動の整備から期待できること
- 3 新たな地域クラブ活動の運営
 - (1) 参加者
 - (2) 運営団体・実施主体
 - (3) 教師等の兼職兼業
 - (4) 活動時間と適切な休養日の設定
 - (5) 学校との連携
 - (6) 責任の所在と保険の加入

IV 学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

- 1 推進体制の整備
- 2 ニーズの把握
 - (1) 生徒や保護者等への情報発信
 - (2) 活動場所の確保
 - (3) 会費の適切な設定と保護者等の負担軽減

V 大会等への参加

- 1 生徒の大会等への参加機会の確保
- 2 大会等への参加の引率や運営に係る体制の整備

おわりに（今後の充実に向けて）

はじめに

学校部活動は、学校教育の一環として行われるものであり、異年齢との交流の中で生徒同士や生徒と教員等との好ましい人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、生徒の心身の成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たし、様々な成果をもたらしています。

しかし、少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校や地域によっては存続が厳しい状況にあります。また、専門性や意思に関わらず教員が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校における働き方改革が進む中、より一層厳しくなります。

このような中、令和4年12月にスポーツ庁・文化庁から「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（以下「国のガイドライン」という。）が発出されました。

持続可能な運営体制を整えるためには、一定規模の地域単位で運営を支える体制を構築していくことが不可欠です。そのため、学校の設置者等と連携しながら、学校や地域の実態に応じ、教師の勤務負担軽減の観点も考慮しつつ、スポーツ・文化芸術活動における部活動指導員等の外部指導者や地域の人々の協力、学校や廃校施設、体育館や公民館等の社会教育施設の活用、スポーツ・文化芸術関係団体等の各種団体との連携など、運営上の工夫を行うことが重要です。

和歌山県教育委員会では、平成30年4月に「和歌山県運動部活動指針」を、令和元年12月に「和歌山県文化部活動指針」を策定し運用していたところですが、国のガイドラインを受けて、このたび新たに「和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を示すこととしました。本方針の「Ⅱ 学校部活動」については、学校の種類等に関わらず該当するものであることから、中学校段階はもとより、高等学校段階においても、競技や文化芸術等の特性や学校の状況等を踏まえ、本方針に準拠することを原則とします。

今後、本方針に基づき、県・市町村教育委員会やスポーツ・文化芸術活動に関わる関係団体等と一体となって、家庭や地域の理解と協力を得ながら、子供たちの豊かなスポーツライフ・感性・情操や創造力等を育み、生徒の多様な学びの場や自らの興味・関心を深く追求する機会の充実に努めていくとともに、休日の学校部活動については、地域や学校の実情等に配慮しながら、地域の運営団体・実施主体による地域クラブ活動への段階的な移行等の環境づくりに向け、地域の実情に応じて丁寧に取り組を進めていただきたいと思います。

各学校及び市町村教育委員会におかれましては、本方針を参考に、生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現を目指した取組を進めていただきますようお願いいたします。

和歌山県教育委員会

本方針の趣旨等

- 本方針は、少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することを目指し、国のガイドラインを踏まえつつ、学校部活動が生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方について示すとともに、学校部活動の地域連携・地域移行に係る和歌山県の方向性や新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応についてまとめたものである。
- 本方針は、原則として、令和6年度から令和8年度までの3年間を改革準備期間とするが、国の方向性や県及び市町村による地域連携・地域移行のための協議会等での検討等を踏まえて、適宜見直しを図ることとする。
- 本方針のうち「Ⅱ 学校部活動」については、国のガイドラインが都道府県に策定を求めている「部活動の在り方に関する方針」として策定するものであり、学校の設置者においては、「設置する学校に係る部活動の方針」を策定する際に参考とするためのものである。
- 本方針のうち「Ⅲ 新たな地域クラブ活動」については、公立中学校の生徒の活動を主な対象としている。国立の中学校においては、学校等の実情に応じて適切な指導体制の構築に取り組むことを、それぞれご検討いただきたい。
- 平成30年4月策定の「和歌山県運動部活動指針」と、令和元年12月策定の「和歌山県文化部活動指針」は、本方針に統合する。

I 生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現を目指す取組

1 国の動向

部活動改革についてのこれまでの中央教育審議会答申や国の通知文、国会での附帯決議等は、以下のとおりである。

国のガイドラインでは、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方が提示され、地域クラブ活動への移行に向けた環境整備としては、「まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進」、「令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す」などが示された。

「新しい時代の教育に向けた持続可能な学習指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（中間まとめ）」（平成29年12月中央教育審議会）

→ 部活動については、学校の業務として行う場合であっても、必ずしも教師が担わなければならない業務ではない。

「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年3月スポーツ庁）

※文化部活動も同様に平成30年12月に文化庁策定

→ 生徒のスポーツ環境の充実の観点から、学校や地域の実態に応じて、スポーツ団体、保護者、民間事業者等の協力の下、学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進める。

「新しい時代の教育に向けた持続可能な学習指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」（平成31年1月中央教育審議会）

→ 地方公共団体や教育委員会が、学校や地域住民と意識共有を図りつつ、地域で部活動に代わり得る質の高い活動の機会を確保できる十分な体制を整える取組を進め、環境を整えた上で、将来的には、部活動を学校単位から地域単位の取組にし、学校以外が担うことも積極的に進めるべきである。

「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部を改正する法律案に対する附帯決議」（令和元年11月衆議院文部科学委員会、同年12月参議院文教科学委員会）

→ 教育職員の負担軽減を実現する観点から、部活動を学校単位から地域単位の取組とし、学校以外の主体が担うことについて検討を行い、早期に実現すること。

「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」（令和2年9月文部科学省）

→ 休日の部活動における生徒の指導や大会の引率については、学校の職務として教師が担うのではなく地域の活動として地域の人材が担うこととし、地域部活動を推進するための実践研究を実施する。その成果を基に、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動を望まない教師が休日の部活動に従事しないこととする。

「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の手交」（令和 4 年 6 月）

※文化庁活動も同様に同年 8 月に手交

→ 休日の運動部活動から段階的に地域移行をしていくことを基本とし、改革集中期間（達成目標：令和 5 年度から令和 7 年度末）を設定。平日の部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられ、地域の実情に応じた休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進。

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（令和 4 年 12 月スポーツ庁・文化庁）

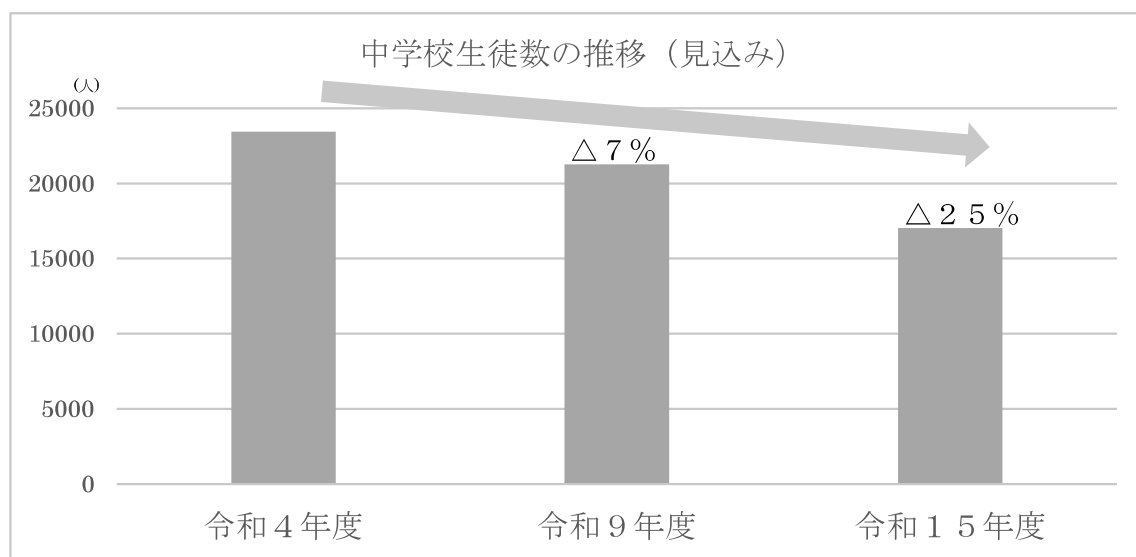
→ 部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という認識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備し、地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。令和 5 年度から令和 7 年度までの 3 年間を改革推進期間として、地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す。

2 和歌山県の中学校部活動を取り巻く現状

(i) 中学校部活動における少子化の影響

少子化の影響で和歌山県内の中学校生徒数は、令和 4 年度（2022 年）には 23,436 人だった生徒数が、5 年後の令和 9 年度（2027 年）には 21,686 人（△7%）、さらに 6 年後の令和 15 年度（2033 年）には 17,671 人（△25%）に減少する見込みである。

令和 5 年度（2023 年）現在においても、団体競技では、単独の学校でのチーム編成が困難なため、複数校合同チームにより大会に出場している学校も少なくない。小規模の学校等では、部活動の設置部数が少なくなり、生徒の多様なニーズへの対応が難しい現状がある。



※ 1 文部科学省学校基本調査における中学校生徒数（令和4年度）（国公立、県立、私立を含む）

※ 2 厚生労働省人口動態統計における出生数の合計（平成24年、平成25年、平成26年）

※ 3 厚生労働省人口動態統計における出生数の合計（平成30年、令和元年、令和2年）

(2) 中学校運動部活動加入状況

【現状】

＜中学生の生徒数及び運動部員数の推移＞

	平成15年度	平成25年度	令和5年度
生徒数 (人)	33,817	29,232	23,209
部員数 (人)	23,583	19,569	13,560

生徒数の減少に伴い、部員数も比例して減少



しかし、部活動数の顕著な減少がないことから、単一の部において人数が揃わず、満足な活動ができていない部もみられる。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
部数 (部)	1,182	調査不実施 (コロナ長期休業のため)	1,166	1,178	1,168

令和5年度における県内の部活動数は、運動部で1,168部、文化部で288部が設置されている。この数は、ここ数年大きく変化していない現状がある。中には、専門の指導者が配置されていない部があり、指導経験のない顧問教員の精神的負担が増大している現状もある。

出典：生徒数「平成15年度 平成25年度 令和5年度 和歌山県学校基本調査より」

部員数「平成15年度 平成25年度 令和5年度 和歌山県学校体育調査より」

部数「令和元年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度 学校体育調査より」

3 和歌山県における今後の目指す姿と取組の方向性

【目指す姿】

和歌山県における生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現

- ・ 生涯にわたって豊かなスポーツ・文化芸術活動に親しむための環境の確保
- ・ 新たなスポーツ・文化芸術環境の整備

【取組の具体】

学校部活動については、その意義を踏まえた上で、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、近隣の市町村や、近隣校と連携することで、適正な運営や効率的・効果的な活動の推進を図ることとし、部活動の指導者として地域の人材を活用することや、複数校による合同部活動の実施など、地域の実情に応じ、地域との連携を積極的に進めていく。

地域の運営団体・実施主体による地域クラブ活動への移行などの環境づくりに向けては、まずは休日の学校部活動について、地域や学校の実情等にも十分に配慮しながら、段階的に進めていく。合意形成や条件整備等のために時間を要する場合があることも想定されるが、生徒の活動の機会確保に向け、地域の実情に応じて、丁寧に取り組むことが望ましい。

具体的には、在校生徒やその保護者、今後、入学予定である小学生や保護者への理解を得ながら段階的に進めることが必要である。

【休日の部活動の地域連携・地域移行の達成時期の取扱い】

令和6年度から令和8年度までを地域連携・地域移行の改革準備期間と定め、各市町村の準備を県が支援するとともに、取組が可能な市町村から改革を実行し、令和10年度までに地域クラブ活動の充実を目指す。

時 期	活動の範囲	備 考
令和6年度	各市町村で地域連携・地域移行に関して検討する場を設け、生徒が生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保や新たなスポーツ・文化芸術環境の整備を検討することを支援する。	学校部活動において、地域へ移行を目指す
）	各市町村で実証的に少なくとも1部活動以上の地域連携・地域移行を目指すことを支援する。	
令和8年度	各学校で少なくとも1部活動以上の地域移行を支援する。	地域での活動の充実を目指す
）	各学校で複数の部活動の地域連携・地域移行を支援する。	
	各市町村で年度末までに地域連携・地域移行に関する方針等を作成することを支援する。	
令和10年度	各市町村が、地域の実情に応じて、地域・学校で持続可能な活動を実施する。	

※準備が整った市町村から上記達成時期を繰り上げ、改革を実施することとする。

学校部活動

【位置付け】**学校教育の一環**（教育課程外）

指導者	当該校の教師
参加者	当該校の生徒
場所	当該校の施設
費用	用具、交通費等の実費
補償	災害共済給付



学校部活動の地域連携

■ **合同部活動**の導入や**部活動指導員等**の適切な配置により生徒の活動機会を確保

指導者	部活動指導員等、関係校の教師 （※アスリート・アーティスト等の人材を含む）
参加者	関係校の生徒
場所	拠点校の施設
費用	用具、交通費等の実費
補償	災害共済給付

■ 少子化の中、持続可能な体制にする必要
（学校や地域によっては存続が厳しい）

■ 地域の実情に応じた段階的な体制整備

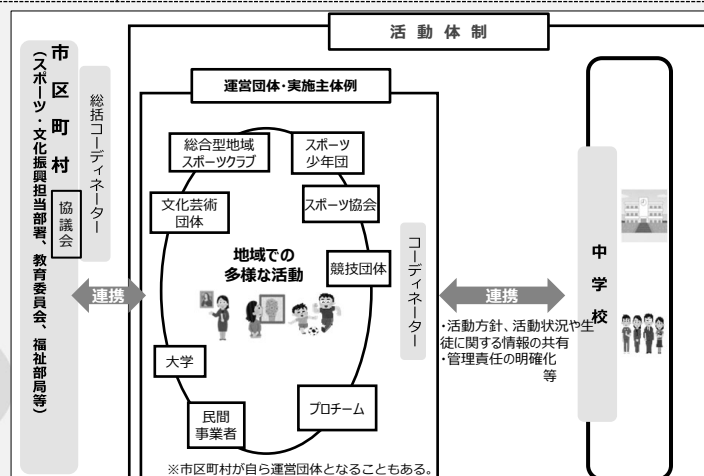
**地域の実情に応じ、
当面は併存**

休日の地域クラブ活動

【位置付け】**学校と連携して行う地域クラブ活動**
（法律上は社会教育、スポーツ・文化芸術）

■ **地域の多様な主体**が実施。学校は、活動方針、活動状況や生徒に関する情報の共有等を通じて連携。

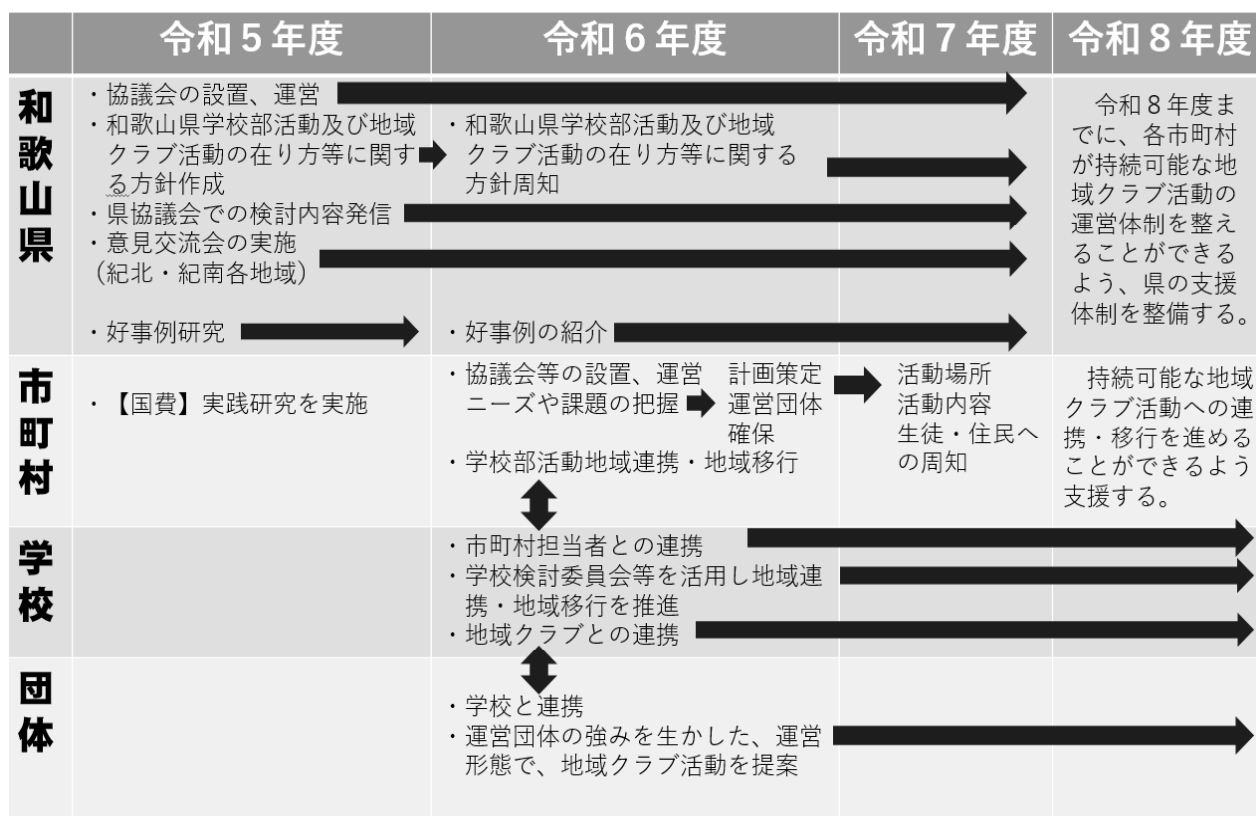
運営団体・実施主体	① 地方公共団体 （※複数地方公共団体の連携を含む） ② 多様な組織・団体 （総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、体育・スポーツ協会、競技団体、プロチーム、民間事業者、大学、文化芸術団体、地域学校協働本部、同窓会等）
指導者	地域の指導者 （一部教師の兼職兼業）
参加者	地域の生徒（※他の世代と一緒に参画する場合を含む）
場所	学校施設、社会教育施設、公共のスポーツ・文化施設、地域団体・民間事業者等有する施設
費用	可能な限り低廉な会費＋用具、交通費等の実費
補償	各種保険等



【学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行の全体像（イメージ）】

（参考：スポーツ庁・文化庁「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」参考資料）

学校部活動地域連携・地域移行に係るスケジュール（案）



Ⅱ 学校部活動

1 学校部活動の意義と学習指導要領上の位置付け

－学校部活動の意義－

生徒の自主的、自発的な参加により行われる学校部活動は、スポーツや文化及び科学等に親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものである。

◇ 学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意する。

◇ 意義（ねらい）に立ち返り、関係者の理解と協力のもと、生徒の自主性を尊重した学校部活動の運営を行う。

学校部活動の意義（ねらい）の再確認

学校部活動は、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意し、生徒が自主的、自発的に活動できるよう配慮することが大切である。また、生徒の能力等に応じた技能・記録の向上や、大会、コンクール、コンテスト、発表会等（以下「大会等」という。）での好成績等を目指すとともに、互いに協力し合って友情を深めるなど好ましい人間関係が育まれるよう適切な指導を行う必要がある。

その運営に当たっては、上述の意義（ねらい）を再確認し、指導者をはじめ、多くの人の理解と協力のもと、生徒が自ら考え、工夫し、協力することで成果を発揮できるように、自主性を尊重した魅力ある学校部活動が展開されるよう配慮する必要がある。

2 学校部活動の運営

(1) 活動の方向性

- ◇ 指導に当たっては、技能等の向上とともに、楽しさを実感させる工夫を行う。
- ◇ 参加しやすい多様なレベルやニーズに応じた活動を行うなど、生徒の挑戦意欲や自己肯定感を高める指導の工夫を行う。
(内発的な動機付けを触発・挑戦意欲や自己肯定感を高める。)

学校部活動の指導に当たっては、技能等の向上とともに、楽しさを実感させることを目的とする。また、技能等の高まりを実感させることは、活動をより積極的なものとするところからも、生徒自身の内発的な動機付けを触発するよう指導の工夫を行う。

加えて、技能等の向上や大会等での好成績以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行えるなど、生徒が参加しやすいような多様なレベルやニーズに応じた活動を行い、生徒の挑戦意欲や自己肯定感を高める指導の工夫を行う。

(2) 学校部活動の方針の策定等

- ◇ 校長は、毎年度、「学校部活動に係る活動方針」を策定する。
- ◇ 部活動顧問は、活動計画や活動実績を作成し、校長に提出する。
- ◇ 校長は、上記の活動方針及び活動計画等を学校のHPへの掲載等により公表する。

校長は、学校の設置者が策定する「設置する学校に係る部活動の方針」に則り、毎年度、「部活動に係る活動方針」を策定する。部活動顧問は、年間の活動計画（活動日、休養日及び参加予定大会等）並びに毎月の活動計画及び活動実績（活動日時・場所、休養日及び大会等参加日程等）を作成し、校長に提出する。

校長は、活動方針及び活動計画等を学校のHPへの掲載等により公表する。

(3) 活動時間の設定

- ◇ 平日は、長くとも2時間程度（朝練習を含む。）とする。交通安全や生徒指導上の諸問題等に配慮して、日没時刻を踏まえて下校時刻を設定する。
 - * 朝練習を行う場合は、安全面に関して細心の注意を払うことはもとより心身の健康や学習活動に対する影響を考慮するとともに、練習の成果を高めることができるように計画し、学校、保護者や生徒の理解を得て行う。
- ◇ 学校の休業日（学期中の土・日及び長期休業日を含む。）は、特別な場合を除き、長くとも3時間程度とする。

活動時間については、生徒の体力や技能を考慮し、過重負担にならないよう、また、競技や分野の特性、オン・オフシーズンの有無等も考慮し、設定することが大切である。なお、活動内容は、質に重点をおき、年間計画を踏まえ、適切な時期・量の練習メニューを作成し、生徒・保護者の理解を得た上で活動することが大切である。

競技・大会等志向で特定の種目や分野に継続的に専念する活動だけではなく、生徒の志向や体力等の状況に適したスポーツ・文化芸術に親しむ機会を、指導体制に応じて段階的に確保する。また、他の世代向けに設置されている活動に生徒と一緒に参画できるようにすることも考えられる。

(4) 適切な休養日の設定

◇ 学期中は、週当たり2日以上の休養日を設ける。

＊ 平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日(以下「週末」という。)は少なくとも1日以上を休養日とする。週末に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の日に振り替える。

◇ 長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じた扱いを行う。

休養日の設定については、地域や学校の実態を踏まえた工夫や週間、月間、年間単位での活動頻度の目安を定めることも考えられる。

なお、発達の段階を考慮し、適切な休養日を設定することは、生徒の障害、外傷を予防することや、ドロップアウト(離脱)やバーンアウト(燃え尽き症候群)に陥るケースを減少させるとともに、バランスの取れた生活や成長の確保となる。

また、長期休業中は、学期中の休養日の設定に準じた扱いを行うとともに、学校部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間(オフシーズン)を設けるよう心掛ける。

(5) 学校全体での共通理解と生徒・保護者及び地域等への周知

◇ 教職員全体での共通理解や、部活動顧問同士で意見・情報の交換を行い、指導方法の工夫・改善に努める。

◇ 学校は、生徒・保護者及び地域に対して、適宜、活動目標や方針、年間計画を説明し、周知徹底する。

学校では、学校部活動の意義(ねらい)や活動の方向性について、校長のリーダーシップのもと、教職員全体で共通理解を図り、それらに沿った活動の支援や指導を行う。また、活動の方向性に沿った一貫した指導ができるよう、日頃の活動状況や指導の在り方について、部活動顧問同士で意見や情報の交換を行い、指導方法の工夫・改善に努める。有識者等を招いて指導を受け、専門知識を得ることも大切である。

なお、円滑な学校部活動の運営のためには、学校だけでなく、家庭や地域と連携して運営上の工夫を行うことが大切であり、保護者や地域の理解や協力が得られるよう努める。

学校は、年度当初の「入学説明会」や「PTA総会」、「学校運営協議会」、「部活動の保護者会」等において、活動目標や方針、年間計画(休養日及び活動時間)、部費等を説明し、周知徹底する。

(6) 部活動指導員・外部指導者の活用

◇ 安全かつ効果的な活動を確保するため、複数の指導者により、多面的な指導ができるような体制を構築することが望ましい。

各学校においては、安全かつ効果的な活動を確保するため、複数の指導者により、多面的な指導ができるように体制を構築することが望ましい。そのため、学校の設置者は、各学校の生徒や教職員の数、校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員等を積極的に任用し、学校に配置する。

その際、学校部活動の位置付けや教育的意義をはじめ、学校教育について理解し、適切な指導を行うため、当該競技及び文化芸術分野の専門性を有する退職教員や関係機関のOB、地域の指導者を活用することは、大変有効である。

(7) 学校部活動の再編

◇ 人数が揃わず、活動を行いにくい学校部活動を有する場合は、学校の実情等を踏まえ、部の再編や合同部活動（拠点校方式等）の積極的な運用を図る。

■ 学校部活動の休部・廃部を検討する場合

- ・ 校長は、現在、部に所属する生徒やその保護者等に対して検討の経過と結果などを十分に説明し、丁寧に対応する。
- ・ 校長は、少なくとも卒業学年まで活動できる体制を整えたり、合同チームや合同練習などの運営を工夫したりするなど、生徒の活動の保障に努める。

■ 学校部活動の創部等を検討する場合

- ・ 新たに学校部活動を創部する場合は、校長は、生徒の意向や生徒・教員数の動向、活動場所の確保、継続的な運営等について十分検討する。

■ 近隣校との合同部活動（拠点校方式等）の創部等を検討する場合

- ・ 近隣校との合同部活動（拠点校方式等）を検討し、生徒の活動機会の確保に努める場合には、相手校や当該市町村で十分な調整をし、大会への参加については、「大会主催者の規定等」の確認をしておくことが重要である。

(8) 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備

◇ 校長は、学校の指導体制等に応じて、性別や障害の有無を問わず、技能等の向上や大会等で好成績を収めること以外にも、気軽に友達と楽しめる、適度な頻度で行える等多様なニーズに応じた活動を行うことができる環境の整備に努める。

【例】 運動部活動

- ・ 複数のスポーツや季節ごとに異なるスポーツを行う活動
- ・ 競技・大会志向でなくレクリエーション志向で行う活動
- ・ 体力づくりを目的とした活動
- ・ 生徒が楽しく体を動かす習慣の形成に向けた動機付けとなる活動等

【例】 文化部活動

- ・ 体験教室などの活動
- ・ レクリエーション的な活動
- ・ 世代に関わらず一緒に活動することができるアート活動
- ・ 生涯を通じて文化芸術を愛好する環境を促進する活動等

(9) 安全管理と事故防止

◇ 指導体制を構築し、安全管理を徹底する。

（生徒の健康管理の徹底、事故防止や事故発生時に対応するマニュアルの作成）

◇ 設備・器具・用具の点検項目を作成し、定期的な点検補修を行う。

◇ 環境条件に応じた適切な指導に努める。

スポーツ・文化芸術活動の実施に当たっては、活動の特性に応じて、怪我や事故、熱中症等の予防だけでなく、自然災害を含めた緊急時の対応等を適切に行うことができる組織体制を整備する必要がある。特に、学校部活動と地域クラブ活

動が併存する中、スポーツ・文化芸術活動における管理責任の所在が異なる場合においても、安全確保に関する連携に切れ目なく取り組む重要性を踏まえ、緊急事態発生時の連絡体制等を踏まえた「事故発生時の対応マニュアル」を作成し、望ましい安全管理の体制整備を進める。

学校の設置者及び地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、法令に基づいて施設や設備の定期的な安全点検を行うだけでなく、指導者や参加者に対しても、日常的な安全確認や点検を行うよう、適宜、指導・是正を行う。

気温、湿度、輻射熱等に応じ、十分な水分の補給や休息時間を確保し、体調の変化に留意しながら適切な指導に努める。

急激な天候の変化（雷、大雨など）にも適切かつ迅速な対応をする。

熱中症への対応については、命の危険に直結することから、スポーツ・文化芸術活動の実施に当たっては、適切な対応が求められる。したがって、以下の「熱中症予防運動指針」を共有するとともに、熱中症警戒アラート等の情報を伝達する仕組みを整備し、必要な連携を行う。

また、大会等の主催者は、夏季であれば空調設備の整った施設の確保や、暑さ指数（WBGT）等の客観的数値に基づいた開催基準の設定、試合数の調整等、生徒の体調管理を最優先した対応を行う。

なお、暑さ指数（WBGT）については、運動を伴う活動前に毎回、計測・確認するとともに、気候の変化に注意しながら、活動中も適宜、計測・確認する。

熱中症予防運動指針

WBGT ℃	湿球 温度 ℃	乾球 温度 ℃	運動は 原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
31 ▲ ▼	27 ▲ ▼	35 ▲ ▼	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分を補給する。暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28 ▲ ▼	24 ▲ ▼	31 ▲ ▼	警 戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
25 ▲ ▼	21 ▲ ▼	28 ▲ ▼	注 意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
21 ▲ ▼	18 ▲ ▼	24 ▲ ▼	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

1) 環境条件の評価にはWBGT(暑さ指数とも言われる)の使用が望ましい。

2) 乾球温度(気温)を用いる場合には、湿度に注意する。湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指針を適用する。

3) 熱中症の発症のリスクは個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。運動指針は平均的な目安であり、スポーツ現場では個人差や競技特性に配慮する。

※暑さに弱い人: 体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など。

出典: (公財) 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」2019より

◇ 協議する場の設置

学校の設置者及び校長は、学校や地域の実情に応じて、地域のスポーツ・文化芸術団体との連携や民間事業者の活用等により、保護者の理解と協力を得て、学校と地域が連携・協働した形での地域におけるスポーツ・文化芸術の環境整備を進める。その際、各地域において、行政、学校、スポーツ・文化芸術団体等の関係者が現状や課題を共有し、今後のスポーツ・文化芸術環境の在り方等を協議する場を設ける。

◇ 関連団体との連携

公益社団法人和歌山県体育協会、競技団体及びその他のスポーツ団体、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の事業について、学校の設置者等と連携し、学校と地域が連携・協働した形での地域のスポーツ環境の充実を図る。

◇ 合同での活動の実施

校長は、地域で実施されている活動と同じスポーツ・文化芸術活動の学校部活動については、休日の練習を合同で実施するなど連携を深める。休日に限らず平日においても、できるところから地域のスポーツ・文化芸術団体等と連携して活動する日を増やす。

Ⅲ 新たな地域クラブ活動

1 新たな地域クラブ活動の在り方

今後も生徒数が減少していくことが見込まれる中、学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により、生徒のスポーツ・文化芸術活動の場として、地域の運営団体・実施主体による新たな地域クラブ活動の実施に向けた枠組みを整備する必要がある。

また、地域クラブ活動は、学校の教育課程外の活動として、社会教育法上の「社会教育」（主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。））の一環として捉えることができ、また、スポーツ基本法や文化芸術基本法上の「スポーツ」「文化芸術」として位置付けられるものでもある。したがって、地域クラブ活動は、学校と連携し、学校部活動の教育的意義を継承・発展しつつ、スポーツ・文化芸術の振興の観点からも充実を図ることが重要である。このため、市町村は、県との連携により、学校部活動で担ってきた生徒のスポーツ・文化芸術の機会を地域全体で支えていくための新たな枠組みづくりを進め、地域の実情に応じ、関係者の共通理解のもと、できるところから学校部活動の地域連携・地域移行を進めていくこととする。

2 新たな地域クラブ活動の整備から期待できること

- ◇ 単独の学校では、設置できないような様々な活動を生徒自らが選択することができる。
- ◇ 中学校の生徒だけではなく、他の世代にとっても、気軽にスポーツ・文化芸術活動を行える環境となり、地域全体として幅広いニーズに応えられる。
- ◇ 生涯を通じた運動習慣づくりや文化芸術等の愛好が促進される。
- ◇ 行政やスポーツ・文化芸術団体、学校等との緊密な連携や、指導者等の活用が充実する。

地域クラブ活動への移行については、生徒の活動の機会確保を最優先に、地域や学校の実情に応じて、取組を進めていく。

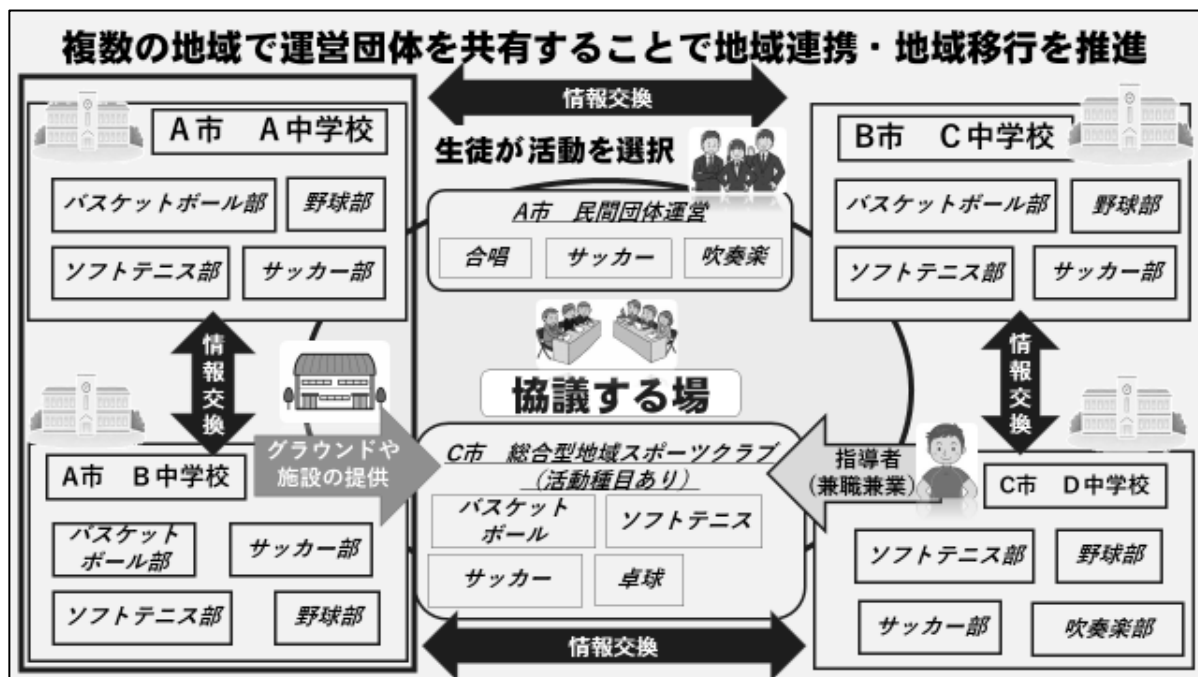
3 新たな地域クラブ活動の運営

(1) 参加者

従来の学校部活動に所属していた生徒はもとより、学校部活動に所属していない生徒、運動や歌、楽器、絵を描くことなどが苦手な生徒、障害のある生徒など、希望する全ての生徒を想定する。

(2) 運営団体・実施主体

- ・ 総合型地域スポーツクラブ
- ・ スポーツ少年団
- ・ 体育・スポーツ協会
- ・ 競技団体
- ・ クラブチーム
- ・ プロスポーツチーム
- ・ 民間事業者
- ・ フィットネスジム
- ・ 学校運営協議会
- ・ 保護者会
- ・ 同窓会
- ・ 複数の学校の運動部や文化部が統合して設立する団体等



(3) 教師等の兼職兼業

市町村及び教育委員会は、地域クラブ活動での指導を希望する教師等が、円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、規程や運用の改善を行う。その際、関係法令、国が示す手引き等も参考にしつつ、以下の点に留意する。

◇ 地域クラブ活動への従事を希望する教師等については、学校以外の主体である地域団体の業務に、報酬を受けて従事することとなるため、兼職兼業の許可を受けるための手続きが必要である。

◇ 一般的には、兼職兼業希望先の地域団体からの依頼状を基に、上司である校長等への相談・了承の上、服務監督教育委員会の兼職兼業の許可を得て、地域団体の業務に従事することとなる。

◇ 本人の意思の尊重

教育委員会等が兼職兼業の許可をする際には、兼職兼業を希望しない教師等が、やむを得ず兼職兼業を申請することがないように、申請者本人の意思を十分に確認、尊重するとともに、学校や地域クラブ活動の運営団体・実施主体と連携の上、教師等の健康、本来業務への支障がないことも勘案して許可する。

※ 教師の心身の健康の確保のために、目安として「時間外在校等時間」と地域団体における「労働時間」の通算が月45時間以内となることが望ましい。

◇ 安定的な指導者の確保

地域のスポーツ・文化芸術団体等において、教師等を指導者として雇用等する際は、居住地や、異動や退職等があっても当該教師等が当該団体等において指導を継続する意向の有無を踏まえ、継続的・安定的に指導者を確保できるよう留意する。

◇ 身分の明確化

教育委員会等は、地域クラブ活動における教師等の関与の実態の把握に努め、教師等が地域クラブ活動の実質的な指導者として恒常的に関与している場合、その管理主体を明確にする。

運営主体	自治体	民間の地域団体 (民間企業、総合型地域スポーツクラブ、クラブチーム等)			その他
勤務形態	委託(委嘱)(※1)	雇用	業務委託・請負(※1)	有償ボランティア(※3)	無償ボランティア
指揮命令権者	(教師等本人)	運営主体(企業等)	(教師等本人)	(教師等本人)	(教師等本人)
賠償責任	教師等本人	運営主体(企業等)	教師等本人	教師等本人	教師等本人
兼職兼業許可手続き	必要	必要	必要	必要	不要
給与等の性質	謝金(委託報酬※2)	賃金	売上	謝礼	—
労基法の適用関係					
最低賃金	適用なし	適用	適用なし	適用なし	適用なし
36協定	無	必要	無	無	無

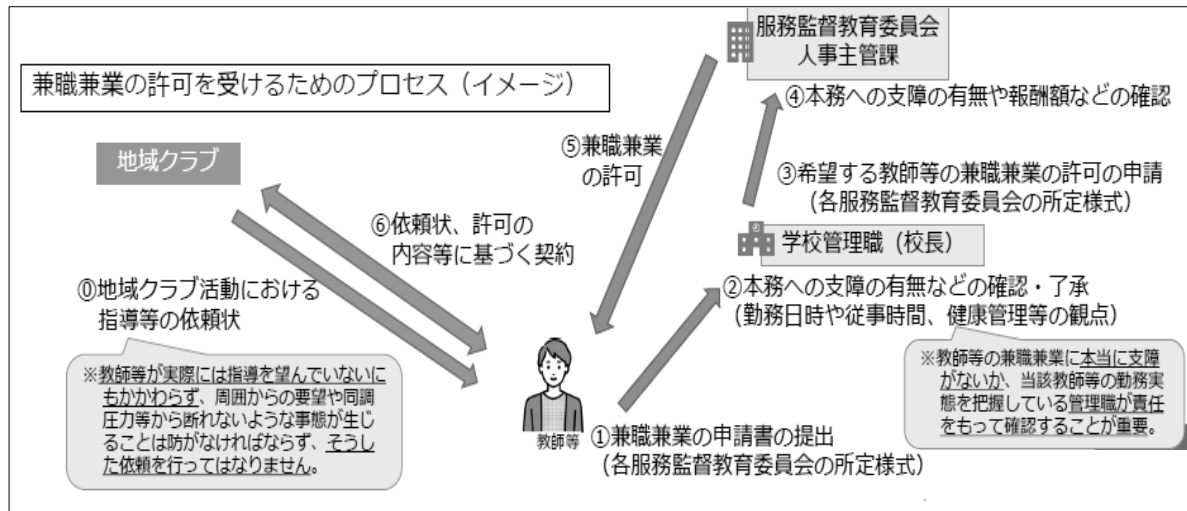
※労働基準法上、労働時間の通算の必要がない場合においても、過労等により教師等としての業務に支障を来さないようにする観点から、教師等の申告等により就業(従事)時間を把握し、在校等時間を含めて就業時間の合計が長時間とならないよう配慮することが望ましい。

※1 委託・請負といった契約の形式や名称にかかわらず、実態として指揮命令権者が企業等であるなど、その実態に応じて判断した結果、雇用契約と認められる場合がある。

※2 講演料や原稿料などの謝金以外については、地方公務員法第38条第1項にいう「報酬」に該当。

※3 有償ボランティアとは、労務の対価として謝礼があるものであり、交通費等の実費弁償の範囲内の支給は含まず、その有無は問わない。

運営主体や勤務形態に応じた諸制度の扱いについて(整理表)



引用：「公立学校の教師等が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業について（手引き）（スポーツ庁）より」

(4) 活動時間と適切な休養日の設定

地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、生徒の心身の成長に配慮して、健康に生活を送れるよう、「Ⅱ 学校部活動」に準じた活動時間、休養日を設定する。その際、学校部活動と地域クラブ活動が併存することから、生徒の成長や生活全般を見通し、運営団体・実施主体と学校を中心とした関係者が連携し、調整を図ることが必要である。

(5) 学校との連携

地域クラブ活動と学校部活動との間では、運営団体・実施主体や指導者が異なることもあるため、活動方針や活動状況、スケジュール等の共通理解を図るとともに、関係者が日々の生徒の活動状況に関する情報共有等を綿密に行い、学校を含めた地域全体で生徒の望ましい成長を保障する必要がある。

県及び市町村は、地域クラブ活動が上述(4)に示した内容に沿って適切に行われるよう、地域クラブの運営団体・実施主体の取組状況を適宜把握し、必要な指導助言を行う。

(6) 責任の所在と保険の加入

地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、事故が発生した場合の管理責任の主体、補償の範囲等を明確にし、定款や規約等に明記するだけでなく、地域クラブ活動の指導者や参加者等に対して、事前及び定期において十分な理解を得て活動する。

地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、分野・競技特性やこれまでの怪我や事故の発生状況等を踏まえるとともに、故意又は過失による賠償責任も想定した上で適切な補償内容である保険を選定し、指導者や参加者等に対して保険加入を義務付けるなど、怪我や事故が生じても適切な補償が受けられるようにする。

なお、学校部活動と地域クラブ活動が併存することを踏まえ、学校における独立行政法人日本スポーツ振興センターによる災害共済給付制度と同程度の補償内容であることが望ましい。

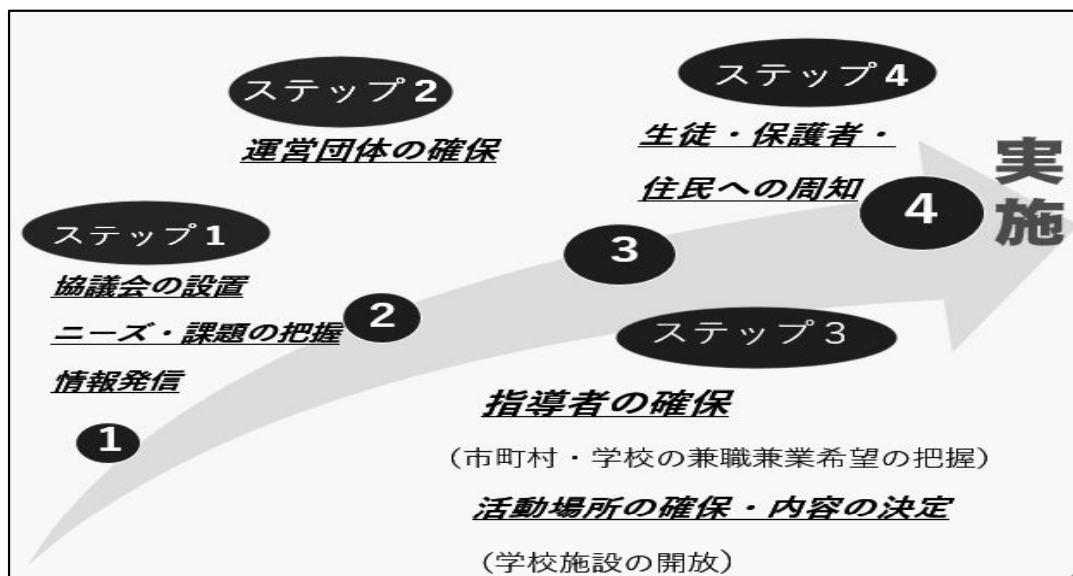
生徒の安全管理については、Ⅱ 学校部活動 2 学校部活動の運営 (9) 安全管理と事故防止に準じて対応を整えるようにする。

IV 学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

1 推進体制の整備

県は、地域連携・地域移行のための協議会を設置し、中学校の休日における部活動の地域移行に係る方向性や課題の共有を図る。また、市町村への情報提供等の支援を行うとともに、県、市町村、スポーツ・文化活動関係団体等の連携体制整備や広域的な支援方策等を検討する。

市町村は、首長部局や地域スポーツ・文化振興担当部署や社会教育・生涯学習担当部署、学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域スポーツ・文化芸術団体、学校、保護者等の関係者からなる協議会等を設置するなど、新たなスポーツ・文化芸術環境の整備方法等を検討し、実行する。



<参考：段階的な体制の整備>

以下のような体制の整備を段階的に進めることが考えられる。

- 市町村が運営団体となり、あるいは市町村が中心となって社団法人や NPO 法人等の運営団体を設立して、スポーツ・文化芸術団体、大学、民間事業者、学校運営協議会等と連携して、学校施設を活用して行われる活動に、指導者を派遣する体制。
- 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、クラブチーム、プロチーム、フィットネスジム、民間事業者、大学や、地域の体育協会、競技団体、文化芸術団体など多様な運営団体・実施主体が、社会体育・教育施設や文化施設、自らの保有する施設を活用して、多様な活動に親しむ機会を確保し、中学校等の生徒が参加する体制。
- ※ なお、直ちに上述のような体制を整備することが困難な場合には、当面、学校部活動の地域連携として、必要に応じて合同部活動（拠点校方式等）も導入しながら、学校の設置者や学校が、地域の協力を得て、部活動指導員や外部指導者を適切に配置し、生徒の活動環境を確保することが考えられる。

2 ニーズの把握

市町村は、それぞれの地域における資源（スポーツ・文化芸術活動に関わる組織、人材、活動環境等）を把握するとともに、持続可能なスポーツ・文化芸術活動の検討が必要である。また、所管する各学校における児童生徒や保護者のニーズ、学校・地域の意向を把握することが必要である。

(1) 生徒や保護者等への情報発信

- ◇ 県及び市町村は、令和6年度以降、地域連携・地域移行を進めることについて、情報発信を強化する。
- ◇ 市町村においては、地域のスポーツ・芸術団体、学校、保護者等の関係者に対し、各市町村の取組状況を発信するため、例えば推進計画の策定等により、取組の背景や地域におけるスポーツ・文化芸術環境の方針、具体的な取組の内容、生徒自身や地域社会に対し見込まれる効果、スケジュール等について分かりやすく周知し、理解と協力を得られるよう取り組む。
- ◇ 県は、各市町村が取組を実施する上で参考となるよう、各市町村の実践・実証事業の取組の状況や成果・課題等を随時発信する。

(2) 活動場所の確保

- ◇ 地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、公共のスポーツ・文化施設や、社会教育施設、地域団体・民間事業者等が有する施設だけでなく、地域の中学校をはじめとして、小学校や高等学校、特別支援学校や、廃校施設を活用する。
- ◇ 県及び市町村は、学校施設の管理運営については、指定管理者制度や業務委託等を取り入れ、地域クラブ活動を実施する団体等に委託するなど、当該団体等の安定的・継続的な運営を促進する。
- ◇ 県教育委員会及び市町村教育委員会は、地域クラブ活動を行う営利を目的とした民間事業者等が、学校施設の利用が可能となるように改善に努める。
- ◇ 県及び市町村は、地域クラブ活動を行う団体等に対して学校施設、社会教育施設や文化施設等について低廉な利用料を認めるなど、負担軽減や利用しやすい環境づくりを行う。
- ◇ 県、市町村及び学校は、学校の負担なく学校施設の円滑な利用を進めるため、学校、行政、関係団体による協議する場を通じて、地域クラブ活動を行う際の利用ルール等を作成する。

(3) 会費の適切な設定と保護者等の負担軽減

- ◇ 地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、生徒や保護者、地域住民等の理解を得つつ、活動の維持・運営に必要な範囲で、可能な限り低廉な会費を設定する。
- ◇ 市町村は、地域クラブ活動に係る施設使用料を低廉な額としたり、送迎面の配慮を行ったりするなどの支援を行うとともに、経済的に困窮する家庭の生徒の地域クラブ活動への参加費用等の支援等の取組を進める。
- ◇ 市町村は、地域クラブ活動の運営団体・実施主体が、地元の企業等の協力を得て、企業等が有する施設の利用や設備・用具・楽器の寄附等の支援を受けられる体制の整備や、家庭の参加費用の負担軽減に資する取組等を推進する。その際、企業からの寄附等を活用した基金の創設や、企業版ふるさと納税の活用等も考えられる。
- ◇ 地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、『スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞』に準拠し、公正かつ適切な会計処理を行い、組織運営に透明性を確保するため、関係者に対する情報開示を適切に行う。

V 大会等への参加

1 生徒の大会等への参加機会の確保

中学校等の生徒を対象とする大会等の主催者は、生徒の参加機会の確保の観点から、大会参加資格を学校単位に限定することなく、地域の実情に応じ、地域クラブ活動や複数校合同チームの会員等も参加できるよう、県大会、地方大会等において見直しを行う。

県及び市町村は、大会等に対する支援の在り方を見直し、地域クラブ活動等も参加できる大会等に対して、補助金や後援名義、学校や公共の体育・スポーツ施設、文化施設の貸与等の支援を行う。

大会等の主催者は、移行期において学校部活動と地域クラブ活動の両方が存在する状況において、公平・公正な大会参加機会を確保できるよう、複数校合同チームの取扱いも含め、参加登録の在り方を決定する。

なお、校長や地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、生徒の教育上の意義や、生徒や指導者の負担が過度とならないことを考慮して、参加する大会等を精査する。

2 大会等への参加の引率や運営に係る体制の整備

大会等の主催者は、学校部活動における大会等の引率は、原則として部活動指導員が単独で担うことや、外部指導者や地域ボランティアの協力を得るなどして、できるだけ教師が引率しない体制を整える旨を大会等の規定として整備し、適用する。

地域クラブ活動における大会等の引率は、実施主体の指導者が行うこととし、大会等の主催者はその旨を大会等の規定として整備し、運用する。

おわりに（今後の充実に向けて）

本方針は、様々な事情を抱える学校現場や地域において、部活動における諸課題の解決に向け、現段階で考え得る方向性（地域連携・地域移行）についての大枠を示すものであり、地域の実情に応じた環境整備を進める具体的な「方法」や「手段」が複数あることを示したものです。

各市町村及び関係団体等においては、地域の実情やニーズに応じて、緊密な連携の中でスポーツ・文化芸術活動に親しむことのできる環境の創出を目指し、部活動をめぐる様々な関係者がそれぞれの立場で協力して進められることを願います。

今後、本方針に関しては、各市町村の取組状況を踏まえつつ、適宜検討を重ね、見直しを行うこととします。

学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会委員

（順不同、敬称略、令和6年2月）

	団 体 名 等	氏 名
1	学識経験者	林 修
2	和歌山県中学校体育連盟代表者	梅本 将志
3	（公社）和歌山県体育協会代表者	島本 久仁
4	総合型地域スポーツクラブ 兼和歌山県スポーツ推進委員協議会代表者	田林 由加
5	総合型地域スポーツクラブ代表者	山下 利香
6	和歌山県スポーツ少年団代表者	山本 安雄
7	文化芸術団体代表者	那須 明
8	和歌山県中学校校長会代表者	藤範 登志美
9	和歌山県 PTA 連合会代表者	梶川 華代
10	和歌山県教職員組合代表者	木野 卓也
11	和歌山県都市教育長協議会代表者	阿形 博司
12	和歌山県町村教育長会代表者	東中 啓吉
13	和歌山県教育庁生涯学習局スポーツ課	田伏 利久
14	和歌山県教育庁学校教育局義務教育課	中井 公美

特別国民体育大会 本県選手団の成績一覧

1 総合成績

令和5年10月17日 終了時点

		男女総合成績（天皇杯得点）	女子総合成績（皇后杯得点）
競 技 得 点	冬季大会	0.0点	0.0点
	会 期 前	71.0点	40.5点
	本 大 会	357.0点	130.5点
	合 計	428.0点	171.0点
参 加 得 点		390.0点	350.0点
得 点 合 計		818.0点	521.0点
総 合 順 位		32位	32位

2 入賞成績 （ 1 6 競技 3 4 種別 6 2 種目 ）

会期前実施競技

競 技	種 別	種 目	氏 名	所 属	順 位	得 点	小 計
水泳（オープンウォータースイミング）	男子	—	ミナミデ タイシン 南出 大伸	木下グループ	2位	7点	7点
水泳（競泳）	成年女子	1 0 0 m背泳ぎ	ヤマサキ ヒカル 山崎 光	新潟医療福祉大学（職）	3位	6点	35点
		4 × 5 0 m フリーリレー	ドイ カリン 土井 香凜	筑波大学	4位	5点	
			タケナカ カナエ 武中 香奈枝	新潟医療福祉大学			
			ヤマサキ ヒカル 山崎 光	新潟医療福祉大学（職）			
			ウチダ サクラ 内田 さくら	早稲田大学			
		5 0 m自由形	ドイ カリン 土井 香凜	筑波大学	5位	4点	
		1 0 0 m自由形	タケナカ カナエ 武中 香奈枝	新潟医療福祉大学	5位	4点	
	少年女子B	5 0 m自由形	エノモト ユヅキ 榎本 裕月	粉河高等学校	1位	8点	
		1 0 0 m自由形	エノモト ユヅキ 榎本 裕月	粉河高等学校	1位	8点	
レスリング	成年男子	フリースタイル 8 6 k g 級	オクイ マオ 奥井 眞生	自衛隊体育学校	5位	2.5点	29点
	少年男子	フリースタイル 7 1 k g 級	ヨネハラ キョウタ 米原 潔太	和歌山北高等学校	5位	2.5点	
		グレコローマンスタイル 5 5 k g 級	モリシタ ダイスケ 森下 大輔	和歌山北高等学校	1位	8点	
		グレコローマンスタイル 6 5 k g 級	ウケガワ オウタロウ 請川 鳳大良	和歌山北高等学校	3位	5.5点	
		グレコローマンスタイル 6 0 k g 級	アリタ エイシン 有田 英慎	和歌山北高等学校	5位	2.5点	
		グレコローマンスタイル 8 0 k g 級	ムロタニ カズノリ 室谷 一憲	和歌山工業高等学校	5位	2.5点	
	女子	フリースタイル 5 3 k g 級	ナカガワ ナツキ 中川 夏希	同志社大学	3位	5.5点	

本大会実施競技

競 技	種 別	種 目	氏 名	所 属	順 位	得 点	小 計
空手道	成年男子	組手（個人） 重量級	カメイ タイガ 亀井 大雅	南紀はまゆう支援学校（教）	5位	2.5点	2.5点

競 技	種 別	種 目	氏 名	所 属	順 位	得 点	小 計
ボウリング	成年男子	個人戦	アサト 安里	株式会社イーストトレジャー	4位	5点	26点
		4人制	ワタナベ 渡邊	日吉染業株式会社	4位	15点	
			ハセガワ 長谷川	和歌山県ボウリング連盟			
			ミヤザキ 宮崎	株式会社一水産			
			アサト 安里	株式会社イーストトレジャー			
	少年女子	個人戦	イトウ 伊藤	由良町立由良中学校	3位	6点	
フェンシング	成年男子	フルーレ	ヤマグチ 山口	中央大学	8位	3点	18点
			ニシグチ 西口	法政大学			
			モリ 森	明治大学			
	成年女子	フルーレ	ハバシタ 巾下	日本女子体育大学	4位	15点	
			イワモト 岩本	日本大学			
			イナダ 稲田	日本女子体育大学			
ライフル 射撃	成年男子	50mライフル男子 伏射60発競技 (FR60PR)	マチダ 町田	(株) 鴻池組	4位	5点	16点
		50mライフル男子 膝射20発競技 (FR20K)	マチダ 町田	(株) 鴻池組	3位	6点	
	成年女子	50mライフル女子 伏射60発競技 (R60PR)	マチダ 町田	大日本印刷 (株)	4位	5点	
セーリング	成年男子	4 2 0 級	タニグチ 谷口	株式会社島精機製作所	8位	3点	39点
			ナカガワ 中川	日吉染業株式会社			
		国体ウインド サーフィン級	オガワ 尾川	株式会社島精機製作所	6位	3点	
	少年男子	4 2 0 級	ウエハラ 上原	和歌山工業高等学校	4位	15点	
			ヒラキタ 平北	和歌山工業高等学校			
	少年女子	4 2 0 級	フジワラ 藤原	和歌山工業高等学校	3位	18点	
			イノノ 磯野	和歌山工業高等学校			
	ウエイトリ フティング	成年男子	6 1 k g 級スナッチ	モリモト 森本	明治大学	8位	
8 1 k g 級スナッチ			シラクサ 白草	和歌山県庁	2位	7点	
8 1 k g 級 クリーン&ジャーク			シラクサ 白草	和歌山県庁	4位	5点	
8 9 k g 級スナッチ			コマサカ 駒阪	早稲田大学	7位	2点	
+ 1 0 9 k g 級 スナッチ			オオカワ 大川	橋本郵便局	5位	4点	
+ 1 0 9 k g 級 クリーン&ジャーク			オオカワ 大川	橋本郵便局	8位	1点	
少年男子		9 6 k g 級 スナッチ	オカダ 岡田	紀北工業高等学校	7位	2点	
		+ 1 0 2 k g 級 スナッチ	ハタウエ 畑上	紀北農芸高等学校	6位	3点	
		+ 1 0 2 k g 級 クリーン&ジャーク	ハタウエ 畑上	紀北農芸高等学校	7位	2点	
女子		7 1 k g 級 スナッチ	カタムラ 片村	医療法人愛晋会中江病院	4位	5点	
		7 1 k g 級 クリーン&ジャーク	カタムラ 片村	医療法人愛晋会中江病院	4位	5点	

競 技	種 別	種 目	氏 名	所 属	順 位	得 点	小 計
自転車	少年男子	スクラッチ	伊 ショナン 伊 書男	和歌山北高等学校	2位	7点	17点
		ポイントレース	ワタスキ ハルト 綿貫 遙人	近畿大学附属和歌山高等学校	7位	2点	
		個人ロード・レース (95.8km)	ワタスキ ハルト 綿貫 遙人	近畿大学附属和歌山高等学校	4位	5点	
		1kmタイムトライアル	ハタ アキト 秦 愛希翔	和歌山北高等学校	6位	3点	
馬術	成年男子	六段障害飛越	フジタニ ヨシハル 藤谷 喜晴	(株) オークワ	2位	7点	10点
		国体大障害飛越競技	フジタニ ヨシハル 藤谷 喜晴	(株) オークワ	6位	3点	
カヌー (スプリント)	成年男子	カヤックシングル (500m)	トミツカ ハルユキ 富塚 晴之	自衛隊体育学校	4位	5点	35点
		カヤックシングル (200m)	トミツカ ハルユキ 富塚 晴之	自衛隊体育学校	2位	7点	
	成年女子	カナディアンシングル (500m)	コバヤシ ミオ 小林 未央	武庫川女子大学	2位	7点	
		カナディアンシングル (200m)	コバヤシ ミオ 小林 未央	武庫川女子大学	2位	7点	
	少年男子	カナディアンシングル (200m)	ソウガワ シュンスケ 寒川 峻輔	神島高等学校	8位	1点	
		カナディアンペア (500m)	カワノ ヤマト 河野 大和	神島高等学校	5位	4点	
			コウノ リク 河野 俐久	神島高等学校			
		カナディアンペア (200m)	カワノ ヤマト 河野 大和	神島高等学校	5位	4点	
			コウノ リク 河野 俐久	神島高等学校			
		ソフト テニス	成年男子	—	ハマダ ユウ 濱田 祐	中央大学	
ヤノ ソウト 矢野 颯人	早稲田大学						
マズダ ケント 増田 健人	和歌山県教育庁						
ハナダ シュウヤ 花田 周弥	和歌山県庁						
マツバラ トモ 松原 幹	近畿大学						
少年女子	—		イワモト ノミ 岩元 望美	和歌山信愛高等学校	5位	20点	
			イワモト マナミ 岩元 愛美	和歌山信愛高等学校			
			ツジ ひなの	和歌山信愛高等学校			
			ウラヤマ サツキ 浦山 皐	和歌山信愛高等学校			
			サトウ アイ 佐藤 愛	和歌山信愛高等学校			
相撲	少年男子	—	ニシデ ダイキ 西出 大毅	和歌山商業高等学校	2位	35点	35点
			スギモト チトセ 杉本 智斗勢	箕島高等学校			
			ノダ テンガ 野田 典雅	箕島高等学校			
			ウスダ テツロウ 臼田 哲朗	箕島高等学校			
			アサダ ハルト 麻田 遥人	箕島高等学校			

競 技	種 別	種 目	氏 名	所 属	順 位	得 点	小 計
陸 上	成年男子	1 0 0 0 0 m競歩	イワイ カズヤ 岩井 和也	日本大学	6位	3点	26. 5点
	成年女子	やり投げ	オサ マヒロ 長 麻尋	国士舘クラブ	3位	6点	
		走高跳	マツモト マリン 松本 万鈴	甲南大学	5位	4点	
	少年男子 A	やり投げ	フジタ カズキ 藤田 和希	向陽高等学校	4位	5点	
	少年女子 A	やり投げ	テラダ リコ 寺田 莉子	開智高等学校	4位	5点	
	少年女子 共通	走高跳	マエニシ サクラ 前西 咲良	近畿大学附属和歌山高等学校	5位	3. 5点	
なぎなた	成年女子	試合	ヤマモト チヨ 山本 千代	和歌山県教育庁	1位	24点	24点
			ヤマウチ アヤ 山内 綾	和歌山北高等学校（教）			
			スミヤ カオリ 角谷 香織	九度山町教育委員会			
卓 球	成年男子	一	タカミ マサキ 高見 真己	日鉄物流株式会社	2位	21点	21点
			サダマツ ユウスケ 定松 祐輔	日鉄物流株式会社			
			フジムラ トモヤ 藤村 友也	日鉄物流株式会社			

特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」和歌山県選手団の競技結果について

会期 令和5年10月28日（土）から30日（月）まで

（個人競技）

競技名	氏名	ふりがな	障害 区分	種目名	記録	順位	種目名	記録	順位
陸上 競技	堀川 卓己	ほりかわ たくみ	肢体	50m	12秒09	3	立幅跳	1m41cm	3
	瀧田 健太	たきた けんた	肢体	50m	22秒37	1	ソフトボール投	9m93cm	1
	西岡 俊明	にしおか としあき	視覚	ジャベリックスロー	24m19cm	2	砲丸投	9m31cm	2
	若林 加代美	わかばやし かよみ	聴覚	立幅跳	1m10cm	3	ソフトボール投	13m34cm	3
	垣本 恭孝	かきもと やすたか	知的	100m	13秒78	3	200m	28秒43	2
	宮前 奈菜	みやまえ なな	知的	100m	14秒84	4	800m	2分47秒16	3
	山本 昂城	やまもと こうき	知的	800m	2分7秒75	1	1500m	4分16秒55	2
	中井 章義	なかい あきよし	知的	1500m	6分33秒12	7	立幅跳	1m75	7
水泳 競技	曾輪 貴博	そわ たかひろ	肢体	25m自由形	17秒02	2	50m自由形	35秒48	4
	原田 朋和	はらだ ともかず	知的	25mバタフライ	14秒58	3	50mバタフライ	33秒41	4
	辻 仁真	つじ にいま	知的	25m背泳ぎ	17秒30	3	50m背泳ぎ	37秒70	4
アーチェリー 競技	澤田 哲治	さわだ てつじ	肢体	リカーブ50m 30mラウンド	523点	4			
卓球 競技	高橋 史子	たかはし ふみこ	肢体	一般卓球	3点	2			
	川口 菜月	かわぐち なつき	聴覚	一般卓球	4点	1			
	谷 霞	たに かすみ	知的	一般卓球	4点	1			
	日下 陽太	くさか ようた	精神	一般卓球	3点	2			
フライング ディスク競技	村田 容子	むらた ようこ	肢体	アキュラシー ディス リート・ファイブ	7投	5	ディスタンス レディー ス・シティング	13m31cm	2
	田中 俊夫	たなか としお	肢体	アキュラシー ディス リート・ファイブ	5投	7	ディスタンス メンズ・ス タンディング	23m40cm	6
	嶋 真秀	しま まさひで	聴覚	アキュラシー ディス リート・ファイブ	8投	2	ディスタンス メンズ・ス タンディング	40m59cm	1
	奥山 礼都	おくやま あやと	知的	アキュラシー ディス リート・ファイブ	8投	2	ディスタンス メンズ・ス タンディング	44m01cm	3
	北野 亮太	きたの りょうた	知的	アキュラシー ディス リート・ファイブ	3投	6	ディスタンス メンズ・ス タンディング	20m17cm	7
	細田 英孝	ほそだ ひでたか	知的	アキュラシー ディス リート・ファイブ	3投	7	ディスタンス メンズ・ス タンディング	26m30cm	4
ポッチャ 競技	矢倉 遼典	やぐら りょうすけ	肢体	ポッチャ競技	4セット	1			
	高山 純代	たかやま すみよ	肢体	ポッチャ競技	4セット	1			
ボウリング 競技	寒川 祐	そうがわ ゆう	知的	ボウリング競技	467	5			
	池下 裕紀	いけした ひろき	知的	ボウリング競技	619	5			

（団体競技）

バレーボール (知的・男子)	優勝	決勝戦 ○（2－1） 東京都
-------------------	----	----------------

バレーボール (知的・女子)	3位	3位決定戦 ○（2－0） 山口県
-------------------	----	------------------

フットソフトボール (知的)	4位	3位決定戦 ●（2－15） 東京都
-------------------	----	-------------------

（メダル獲得数）

	金	銀	銅
陸上競技	3	4	6
水泳	0	1	2
アーチェリー	0	0	0
卓球	2	2	0
フライングディスク	1	3	1
ボウリング	0	0	0
ポッチャ	1	0	0
バレーボール	1	0	1
フットソフトボール	0	0	0
計	8	10	10

第17回全国障害者スポーツ大会
和歌山県選手団メダル獲得数金メダル 12個
銀メダル 10個
銅メダル 4個 計 26個第18回全国障害者スポーツ大会
和歌山県選手団メダル獲得数金メダル 13個
銀メダル 9個
銅メダル 7個 計 29個第22回全国障害者スポーツ大会
和歌山県選手団メダル獲得数金メダル 11個
銀メダル 9個
銅メダル 5個 計 25個

※第19回大会は荒天により、第20回大会及び第21回大会は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため全競技中止